

2015年度

大学院シラバス

国際言語文化研究科

摂南大学大学院

# 国際言語文化研究科

**Graduate School of International Languages and Cultures**

国際言語文化専攻

Division of International Languages and Cultures

## 国際言語文化研究科の教育目標とカリキュラム編成方針

国際化の潮流はますます加速し、政治・経済・文化・情報など、社会のあらゆる面で国際的な相互依存関係が強まっています。わが国の社会や文化もグローバルな共生の世界を志向する時代に入ってきました。

また一方では、世界各地で戦争や紛争が後を絶たず、さまざまな悲劇を生んでいます。さらに環境問題、経済問題など多くの問題が世界的規模で拡大しています。今やわれわれは、これらの諸問題と否応なく直面せざるを得ない状況となっており、国際社会においてわが国が果たすべき役割はますます高まりつつあります。

国際言語文化研究科においては、このような状況を踏まえ、国際化がもたらす複雑な諸問題の解決に貢献できる人材の育成を目指します。具体的には、欧米とアジアに重点を置き、その言語と文化を深く学びます。

教育課程は、「欧米言語文化研究領域」と「アジア言語文化研究領域」の2研究領域、および共通授業科目で構成され、さらに、それぞれの研究領域は、言語文化特論科目群と地域文化特論科目群、総合演習科目群からなっています。また、共通授業科目には、専門外国語能力を涵養する「上級英語」「上級中国語」「上級スペイン語」「上級インドネシア・マレー語」を含んでいます。

とくに本研究科においては、一つの研究領域における高度な学習と主体的な研究を通して専門性を深めるとともに、他研究領域の科目も広く履修することによって、複眼的かつ学際的な視点を養うことを主眼としています。

### 【履修方法】

学生は、専攻する研究領域の指導教員から、履修および研究についての指導を受けるものとする。

1. 選択した研究領域の「総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（論文指導を含む）」4科目8単位を必修とする。
2. 選択した研究領域の授業科目の中から、当該指導教員が担当する授業科目（特論）を含む6科目12単位以上を選択必修とする。
3. 他の研究領域の選択科目から、2科目4単位以上を選択必修とする。
4. 共通科目の中から、「上級英語Ⅰ・Ⅱ」「上級中国語Ⅰ・Ⅱ」「上級スペインⅠ・Ⅱ」「上級インドネシア・マレー語Ⅰ・Ⅱ」のいずれか2科目2単位を含む4科目6単位以上を選択必修とする。

ただし、①研究科長が認めた場合は、他研究科の授業科目を履修しその修得単位を共通科目の単位数に含めることができる。ただし、最大4単位までとする。

- ②外国人留学生については、「上級英語Ⅰ・Ⅱ」「上級中国語Ⅰ・Ⅱ」「上級スペインⅠ・Ⅱ」「上級インドネシア・マレー語Ⅰ・Ⅱ」を「アジア言語文化特論ⅥA・ⅥB」に読み替えることができる。

## 授業(指導)計画の記載内容の凡例

授業(指導)計画は、以下の項目に沿って記載しています。

1. 科目名等 全授業(指導)科目名に英文名を併記した。  
対象となる年次、開講学期、単位数、担当者の氏名を順に記載した。
2. 授業(指導)概要・目的 授業(指導)全体の概要、各研究科の教育目的に基づいた位置付けを記載した。
3. 到達目標 授業(指導)の目的とする到達目標について、できるだけ具体的に記載した。
4. 指導方法と留意点 授業の進め方や予習・復習の指示、課題やレポートの指示等を記載した。
5. 授業(指導)計画 授業(指導)内容が分かるように、原則として授業(指導)テーマ、内容・方法等を記載した。
6. 事前・事後学習課題 授業時間外における学習(予習・復習)内容が分かるように、できるだけ具体的に記載した。
7. 評価基準 成績評価の方法について、できるだけ具体的に記載した。
8. 教材等 授業(指導)で使用する教材について記載した。

## 目 次

英米言語文化特論ⅠA・ⅠB (応用言語学・語用論) .....	1
英米言語文化特論ⅡA・ⅡB (応用言語学) .....	2
英米言語文化特論ⅢA・ⅢB (英語語法・辞書学) .....	3
英米言語文化特論ⅣA・ⅣB (英語学) .....	4
英米言語文化特論ⅤA・ⅤB (アメリカ研究) .....	5
英米言語文化特論ⅥA・ⅥB (英語教育学・異文化コミュニケーション) .....	6
英米言語文化特論ⅦA・ⅦB (言語学) .....	7
英米言語文化特論ⅧA・ⅧB、英米地域文化特論ⅡA・ⅡB (比較文化) .....	8
欧米地域文化特論ⅠA・ⅠB、英米言語文化特論ⅧA・ⅧB (ヨーロッパ思想) .....	9
欧米地域文化特論ⅡA・ⅡB、英米地域文化特論ⅠA・ⅠB (ラテンアメリカ文化) .....	10
欧米地域文化特論ⅢA・ⅢB、英米地域文化特論ⅢA・ⅢB (欧米政治思想) .....	11
欧米地域文化特論ⅣA・ⅣB、英米地域文化特論ⅣA・ⅣB (多文化社会論) .....	12, 13
欧米言語文化研究総合演習Ⅰ・Ⅱ、英米言語文化研究総合演習Ⅰ・Ⅱ .....	14
欧米言語文化研究総合演習Ⅲ・Ⅳ、英米言語文化研究総合演習Ⅲ・Ⅳ .....	15
アジア言語文化特論ⅡA・ⅡB、東アジア言語文化特論ⅡA・ⅡB (日中比較文学) .....	16
アジア言語文化特論ⅢA・ⅢB、東アジア言語文化特論ⅢA・ⅢB (比較言語学) .....	17
アジア言語文化特論ⅣA・ⅣB、東アジア言語文化特論ⅣA・ⅣB (日本文学) .....	18
アジア言語文化特論ⅤA・ⅤB、東アジア言語文化特論ⅤA・ⅤB (日本語学) .....	19
アジア言語文化特論ⅥA・ⅥB、東アジア言語文化特論ⅥA・ⅥB (日本語教育) .....	20
アジア地域文化特論ⅠA・ⅠB、東アジア地域文化特論ⅠA・ⅠB (中国芸術) .....	21, 22
アジア地域文化特論ⅡA・ⅡB、東アジア地域文化特論ⅡA・ⅡB (文化人類学) .....	23, 24
アジア地域文化特論ⅢA・ⅢB、東アジア地域文化特論ⅢA・ⅢB (美術史) .....	25, 26
アジア地域文化特論ⅤA・ⅤB、東アジア地域文化特論ⅤA・ⅤB (日本地誌) .....	27, 28
アジア言語文化研究総合演習Ⅰ・Ⅱ、東アジア言語文化研究総合演習Ⅰ・Ⅱ .....	29
アジア言語文化研究総合演習Ⅲ・Ⅳ、東アジア言語文化研究総合演習Ⅲ・Ⅳ .....	30
上級英語Ⅰ・Ⅱ .....	31
上級中国語Ⅰ・Ⅱ .....	32
上級スペイン語Ⅰ・Ⅱ .....	33
上級インドネシア・マレー語Ⅰ・Ⅱ .....	34
国際政治特論Ⅰ・Ⅱ .....	35, 36
国際経済特論Ⅰ・Ⅱ .....	37
異文化理解Ⅰ・Ⅱ .....	38, 39

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
英米言語文化特論 I A (応用言語学・語用論) Topics in English Language and Cultures IA (Applied Linguistics and Pragmatics) (2015年度・2014年度以前入学者用)	1	前期	2	ニシカワ マユミ 西川 眞由美
<b>【 授業 (指導) 概要・目的 】</b> この授業では、語用論に関するさまざまな理論を使用し、状況に応じたコミュニケーション (主に言語伝達) を多様な側面から分析し研究する。前半は語用論に関する主な論文を読み進め、理論自体の理解を深める。後半は、具体的な言語使用例を使って、なぜ話し手はその状況でその発話を使うのか? 聞き手はどのようにしてその発話を解釈するのか? さらに、その発話によって何が伝えられるのかを考察する。ポライトネス等対人関係などにも着目しながら、効果的なコミュニケーションのあり方を追究する。				
<b>【 到達目標 】</b> 言語学、特に語用論の基礎となる概念や枠組みを理解すること、英語で言語学の論文を読みこなす力、さらに物事を論理的に思考する力を養うことを目標とする。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 授業では、英語と日本語の多くの文献を読むので必ず予習をして授業に臨むこと。				
<b>【 授業 (指導) 計画 】</b> 授業は、主に、次の項目に添って行う。(1) 語用論とは、(2) さまざまな語用論の理論、(3) 発話解釈と認知能力、(4) コミュニケーションにおける労力と効果、(5) 発話の含意について、など。				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> 各回の指定教材をあらかじめ読み要点を整理しておくこと。また当該授業終了後、自分の考えをまとめ中間および期末レポートの作成に備えること (合計 30 時間)。中間レポートおよび期末レポートの作成 (合計 30 時間)。				
<b>【 評価基準 】</b> 出席、予習の度合い、授業への熱意、総合的な理解				
<b>【 教 材 等 】</b> 適宜 プリント配布			<b>【 備 考 】</b>	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
英米言語文化特論 I B (応用言語学・語用論) Topics in English Language and Cultures IB (Applied Linguistics and Pragmatics) (2015年度・2014年度以前入学者用)	1	後期	2	ニシカワ マユミ 西川 眞由美
<b>【 授業 (指導) 概要・目的 】</b> この授業では、語用論に関するさまざまな理論を使用し、状況に応じたコミュニケーション (主に言語伝達) を多様な側面から分析し研究する。前期に学んだ語用論に関するさまざまな理論を使って、間接表現、ポライトネス (丁寧表現)、レトリック (比喩表現、皮肉、誇張)、談話標識などがどのように解釈されるのか、またそれらを使ってコミュニケーションを行うことによってどのような効果が得られるのか、を考察する。				
<b>【 到達目標 】</b> 言語学、特に語用論の基礎となる概念や枠組みを理解すること、英語で言語学の論文を読みこなす力、さらに物事を論理的に思考する力を養うことを目標とする。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 授業では、英語と日本語の多くの文献を読むので必ず予習をして授業に臨むこと。				
<b>【 授業 (指導) 計画 】</b> 授業は、主に、次の項目に添って行う。(1) 間接表現と含意、(2) ポライトネス発話、(3) レトリック表現の解釈と効果、(4) 談話標識の意味と機能について、など。				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> 各回の指定教材をあらかじめ読み要点を整理しておくこと。また当該授業終了後、自分の考えをまとめ中間および期末レポートの作成に備えること (合計 30 時間)。中間レポートおよび期末レポートの作成 (合計 30 時間)。				
<b>【 評価基準 】</b> 出席、予習の度合い、授業への熱意、総合的な理解				
<b>【 教 材 等 】</b> 適宜 プリント配布			<b>【 備 考 】</b>	

科目名	配当年次	開講期	単位数	担当者
英米言語文化特論ⅡA (応用言語学) Topics in English Language and Cultures ⅡA (Applied Linguistics) (2015年度・2014年度以前入学者用)	1	前期	2	シオン マクガハン Sean McGovern
<b>【授業(指導)概要・目的】</b> この授業は、実践英語能力の大幅な強化をめざし、言語の意味創出に関する研究を行う。すなわち、言語がコミュニケーション媒介の様々な組み合わせによって意味をつくりだす事実に着目し、その多様性を考察する。それは言語だけに限定されず、画像をも含め、それぞれの機能を駆使して、表現の可能性を広げていく。前半はテキストの基本構造を学び、後半は意味創出の原理を学ぶ。各自の論文課題に応用できる英語力を付けるのに絶好の機会になるだろう。				
<b>【到達目標】</b> 毎週の授業ではコミュニケーションの手段としての様々なジャンルのテキストを取りあげ、分析し、その機能を研究し、各自の英語能力向上に役立てていく。				
<b>【指導方法と留意点】</b> 授業では英語でエッセイを読み、文章を作成していく。クラス討論も英語で全て行う。				
<b>【授業(指導)計画】</b> 様々なジャンルのテキストを考察する。テキストの基本構造の学習。				
<b>【事前・事後学習課題】</b> 授業内では新しいアイデアを示すことが求められるため、情報収集やレポートの下書きなどを行うこと。				
<b>【評価基準】</b> クラスワーク40% レポート30% プレゼンテーション30%				
<b>【教材等】</b> プリント			<b>【備考】</b>	

科目名	配当年次	開講期	単位数	担当者
英米言語文化特論ⅡB (応用言語学) Topics in English Language and Cultures ⅡB (Applied Linguistics) (2015年度・2014年度以前入学者用)	1	後期	2	シオン マクガハン Sean McGovern
<b>【授業(指導)概要・目的】</b> この授業は、実践英語能力の大幅な強化をめざし、言語の意味創出に関する研究を行う。すなわち、言語がコミュニケーション媒介の様々な組み合わせによって意味をつくりだす事実に着目し、その多様性を考察する。それは言語だけに限定されず、画像をも含め、それぞれの機能を駆使して、表現の可能性を広げていく。前半はテキストの基本構造を学び、後半は意味創出の原理を学ぶ。各自の論文課題に応用できる英語力を付けるのに絶好の機会になるだろう。				
<b>【到達目標】</b> 毎週の授業ではコミュニケーションの手段としての様々なジャンルのテキストを取りあげ、分析し、その機能を研究し、各自の英語能力向上に役立てていく。				
<b>【指導方法と留意点】</b> 授業では英語でエッセイを読み、文章を作成していく。クラス討論も英語で全て行う。				
<b>【授業(指導)計画】</b> テキスト全体、言語や画像、それぞれの機能を分析し、意味創出の原理を学ぶ。				
<b>【事前・事後学習課題】</b> 授業内では新しいアイデアを示すことが求められるため、情報収集やレポートの下書きなどを行うこと。				
<b>【評価基準】</b> クラスワーク40% レポート30% プレゼンテーション30%				
<b>【教材等】</b> プリント			<b>【備考】</b>	

科目名	配当年次	開講期	単位数	担当者
英米言語文化特論ⅢA (英語語法・辞書学) Topics in English Language and Cultures ⅢA (Present-day English Usage and Lexicography) (2015年度・2014年度以前入学者用)	1	前期	2	スミヨシ マコト 住吉 誠
<b>【授業(指導)概要・目的】</b> 現代英語の変化する姿を、実際のデータにもとづいて調査し、そのような変化がなぜ起こっているのかについて考察する。現在の英語の姿をいかに辞書の記述に反映するかなども含めて、なにをどのようにどこまで辞書の記述として掲載するべきかなどについて、辞書学の知見を踏まえながら検討・議論する。				
<b>【到達目標】</b> 実際のデータをもとに、英語の姿をできるだけ忠実に追うこと、そして、それに自分なりの説明をつけられるようにすることを目的とする。				
<b>【指導方法と留意点】</b> 現代英語について記述した文法書や研究書の抜粋を輪読し、そこに書かれてある記述について討論をする。毎回各自が気になった文法事項について例を挙げながら簡単なプレゼンテーションをしてもらう。				
<b>【授業(指導)計画】</b> Quirk et al. (1985), Huddleston & Pullum (2001)などをはじめとする英語の文法書や、現代英語を扱った研究書からの抜粋を読みながら理解を深め、自分で計画的に用例を収集して、それぞれの文献の記述と比較検討する。学んだことをいかに辞書記述へ反映するかを考えていく。				
<b>【事前・事後学習課題】</b> 毎回配布教材を読み込み、内容を理解し、授業での発表に備えること。また、英字新聞やペーパーバックなどで使用されている、興味深い英語の表現や文法事項を収集するよう努め、それらを期末レポートに使用すること。(合計30h)。				
<b>【評価基準】</b> 授業への貢献度、レポートなどを総合して判断する。				
<b>【教材等】</b> 授業中に指示する。			<b>【備考】</b>	

科目名	配当年次	開講期	単位数	担当者
英米言語文化特論ⅢB (英語語法・辞書学) Topics in English Language and Cultures ⅢB (Present-day English Usage and Lexicography) (2015年度・2014年度以前入学者用)	1	後期	2	スミヨシ マコト 住吉 誠
<b>【授業(指導)概要・目的】</b> 現代英語の変化する姿を、実際のデータにもとづいて調査し、そのような変化がなぜ起こっているのかについて考察する。現在の英語の姿をいかに辞書の記述に反映するかなども含めて、なにをどのようにどこまで辞書の記述として掲載するべきかなどについて、辞書学の知見を踏まえながら検討・議論する。				
<b>【到達目標】</b> 実際のデータをもとに、英語の姿をできるだけ忠実に追うこと、そして、それに自分なりの説明をつけられるようにすることを目的とする。				
<b>【指導方法と留意点】</b> 辞書についての研究書の抜粋を輪読し、そこに書かれてある記述について討論をする。				
<b>【授業(指導)計画】</b> 辞書学の論文の抜粋を読みながら、user-friendly な辞書というのはどうあるべきか、どのような記述をすればいいのかについて考える。実際に自分で集めた用例から導き出される「規則」が、辞書の中ではどのように扱われているか議論しながら学んでいく。				
<b>【事前・事後学習課題】</b> 毎回配布教材を読み込み、内容を理解し、授業での発表に備えること。また、英字新聞やペーパーバックなどで使用されている、興味深い英語の表現や文法事項を収集するよう努め、それらを期末レポートに使用すること。(合計30h)。				
<b>【評価基準】</b> 授業への貢献度、レポートなどを総合して判断する。				
<b>【教材等】</b> 授業中に指示する。			<b>【備考】</b>	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
英米言語文化特論IV A (英語学) Topics in English Language and Cultures IVA (English Linguistics) (2015年度・2014年度以前入学者用)	1	前期	2	タナカケンジ 田中 健二
<b>【 授業 (指導) 概要・目的 】</b> 日本の英字新聞として <i>The Japan Times</i> を使い、社説に表れる言語表現スタイル・使用語彙傾向を学ぶ。そして大きな事件が起こった場合の一般報道記事と社説にどんな文体の差があるのか、また記事内容が社会に与える影響を考察していく。さらに日本とアメリカのジャーナリズム英語を言語表現スタイルと報道姿勢の点から比較検討するため、 <i>The New York Times</i> の記事も研究の対象とする。				
<b>【 到達目標 】</b> 日米の英字新聞から情報を素早く、正確に読み取ること。またその報道が読者に与えるジャーナリスト的な影響を推測できるようにする。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 任意に選んだ英字新聞記事を読みに留意しながら、正確な読解をおこなえるよう指導する。トピックは政治、経済、軍事、国際関係、スポーツ、美術、文化、など多岐にわたるようにしてゆく。				
<b>【 授業 (指導) 計画 】</b> 導入として <i>The Japan Times</i> の記事の全体像を把握する。紙面の構成、各記事の提示の仕方、写真の扱いとキャプションの英語、straight newsとeditorialの文体の違いなどを調査する。その後、タイムリーな記事を対象として、文体、語彙、内容、背景となる知識などを調べ、新聞記事が読者に与える効果と影響などを考察する。できるだけ多読をこなし、帰納的に英字新聞のスタイルを体得する。さらに社説の語彙に特に注意して読みを進める。米国の新聞記事と日本の英字新聞記事の間に報道姿勢の違いはあるのか、あるならばそれはどの点かにも留意する。				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> 授業内で指示した分野の英字新聞記事を収集して発表に備えること。英字新聞記事の分野は例えば、経済、軍事、政治、生活関連、新しい社会の動き、芸術などである。				
<b>【 評価基準 】</b> 毎回の授業参加を判断する。				
<b>【 教材等 】</b> 授業中に指示する。			<b>【 備考 】</b>	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
英米言語文化特論IV B (英語学) Topics in English Language and Cultures IVB (English Linguistics) (2015年度・2014年度以前入学者用)	1	後期	2	タナカケンジ 田中 健二
<b>【 授業 (指導) 概要・目的 】</b> 日本の英字新聞として <i>The Japan Times</i> を使い、社説に表れる言語表現スタイル・使用語彙傾向を学ぶ。そして大きな事件が起こった場合の一般報道記事と社説にどんな文体の差があるのか、また記事内容が社会に与える影響を考察していく。さらに日本とアメリカのジャーナリズム英語を言語表現スタイルと報道姿勢の点から比較検討するため、 <i>The New York Times</i> の記事も研究の対象とする。				
<b>【 到達目標 】</b> 日米の英字新聞から情報を素早く、正確に読み取ること。またその報道が読者に与えるジャーナリスト的な影響を推測できるようにする。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 任意に選んだ英字新聞記事を読みに留意しながら、正確な読解をおこなえるよう指導する。トピックは政治、経済、軍事、国際関係、スポーツ、美術、文化、など多岐にわたるようにしてゆく。				
<b>【 授業 (指導) 計画 】</b> <i>The Japan Times</i> の紙面の構成、各記事の提示の仕方、写真の扱いとキャプションの英語、straight newsとeditorialの文体の違いなどを調査する。その後、タイムリーな記事を対象として、文体、語彙、内容、背景となる知識などを調べ、新聞記事が読者に与える効果と影響などを考察する。できるだけ多読をこなし、帰納的に英字新聞のスタイルを体得する。さらに社説の語彙に特に注意して読みを進める。米国の新聞記事と日本の英字新聞記事の間に報道姿勢の違いはあるのか、あるならばそれはどの点かにも留意する。				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> 授業内で指示した分野の英字新聞記事を収集して発表に備えること。英字新聞記事の分野は例えば、経済、軍事、政治、生活関連、新しい社会の動き、芸術などである。				
<b>【 評価基準 】</b> 毎回の授業参加を判断する。				
<b>【 教材等 】</b> 授業中に指示する。			<b>【 備考 】</b>	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
英米言語文化特論VA (アメリカ研究) Topics in English Language and Cultures VA (American Studies) (2015年度・2014年度以前入学者用)	1	前期	2	トイ ユウスケ 鳥居 祐介
<b>【授業(指導)概要・目的】</b> アメリカ研究(American Studies)の主要な理論と実践について学ぶ。マルクス主義、精神分析、構造主義、ポスト構造主義など、いわゆるカルチュラル・スタディーズにおいて主要な位置を占めてきた諸理論の概要を学び、それらが実際の研究にどのように生かされているのかを、実例を通じて検証する。実例は20世紀のアメリカ文化史、とりわけ大衆文化(Popular Culture)を対象としたものから、受講生の関心に依じて選ぶ。				
<b>【到達目標】</b> 英語圏のカルチュラル・スタディーズの問題意識と用語に親しみ、特にアメリカ合衆国の文化についての学術的論考を読解できるようになる。				
<b>【指導方法と留意点】</b> 英語、日本語によるリーディングとディスカッションを中心に進める。受講生にはアメリカ合衆国の文化や歴史に対する強い関心と共に、理論的、抽象的なものを含む多くの文献を精読する意欲が要求される。				
<b>【授業(指導)計画】</b> 受講生の語学力および関心分野に合わせて教科書を選定し、最初の3週間で教科書以外の文献も含めた英語文献・日本語文献からなるリーディング・リストを作成する。以降、受講生はリストに従い、文献を読み進めながらディスカッションを行う。学期末には読了した文献についてのレポートを作成する。				
<b>【事前・事後学習課題】</b> 毎回、指定のリーディングについての疑問やコメントを用意して授業に臨むこと。				
<b>【評価基準】</b> ディスカッションへの貢献70% + 学期末レポート30%				
<b>【教材等】</b> 和泉真澄・趙無名編著『アメリカ研究の理論と実践』 (2007); John Storey, Cultural Theory and Popular			<b>【備考】</b> 研究室は7号館3階	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
英米言語文化特論VB (アメリカ研究) Topics in English Language and Cultures VB (American Studies) (2015年度・2014年度以前入学者用)	1	後期	2	トイ ユウスケ 鳥居 祐介
<b>【授業(指導)概要・目的】</b> 前期に引き続き、アメリカ研究(American Studies)の主要な理論と実践について学ぶ。後期は特に研究の実例を中心に読むほか、実例の中で分析対象とされている一次資料の精読も行う。				
<b>【到達目標】</b> 英語圏のカルチュラル・スタディーズの問題意識とタームに親しみ、特にアメリカ合衆国の文化についての学術的論考を読解できるようになる。				
<b>【指導方法と留意点】</b> 英語、日本語によるリーディングとディスカッションを中心に進める。受講生にはアメリカ合衆国の文化や歴史に対する強い関心と共に、理論的、抽象的なものを含む多くの文献を精読する意欲が要求される。				
<b>【授業(指導)計画】</b> 後期開始直後に、前期に作成したリーディング・リストを適宜増補、改定する。以降、受講生はリストに従い、文献を読み進めながらディスカッションを行う。学期末には読了した文献についてのレポートを作成する。				
<b>【事前・事後学習課題】</b> 毎回、指定のリーディングについての疑問やコメントを用意して授業に臨むこと。				
<b>【評価基準】</b> ディスカッションへの貢献70% + 学期末レポート30%				
<b>【教材等】</b> 前期に指定の文献に、適宜追加する。			<b>【備考】</b> 研究室は7号館3階	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
英米言語文化特論VIA (英語教育学・異文化コミュニケーション) Topics in English Language and Cultures VIA (English Education and Cross-cultural Communication) (2015年度・2014年度以前入学者用)	1	前期	2	ヤグチ ミチコ 家口 美智子
<b>【 授業（指導）概要・目的 】</b> この講義では、英語教育・異文化コミュニケーションに関する諸問題を受講者が興味のある分野・テーマに絞って論文を読んでいく。論文を読みながら、全体像の把握に努める。ディスカッションをしながら、問題点の解決策を講ずる。				
<b>【 到達目標 】</b> 日英両言語で論文が読め、建設的な批判ができるようになることを目標とする。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 論文を読んでいく。そのためには相当の研究時間が必要となることに留意しなければならない。				
<b>【 授業（指導）計画 】</b> 関連テーマの英語の論文を10本、日本語の論文を10本読む。研究者ごとのアプローチの違いを学習する。				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> ・事前に配布する論文（英文20ページ前後、日本語論文30ページ前後）を通読し、疑問点等を洗い出しておく。 （合計30h） ・期末レポートの作成（合計30h）				
<b>【 評価基準 】</b> ディスカッションとレポートを基本に評価する。				
<b>【 教材等 】</b> 授業中に配布する。			<b>【 備考 】</b> 学会発表をめざしましょう！	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
英米言語文化特論VIB (英語教育学・異文化コミュニケーション) Topics in English Language and Cultures VIB (English Education and Cross-cultural Communication) (2015年度・2014年度以前入学者用)	1	後期	2	ヤグチ ミチコ 家口 美智子
<b>【 授業（指導）概要・目的 】</b> 英米言語文化特論VIA（英語教育・異文化コミュニケーション）ではテーマを絞ったが、本文化特論VIBでは、広範囲に渡るトピックに関する論文を講読していく。英語教育全般に渡る諸問題にふれる。				
<b>【 到達目標 】</b> 英語教育全般の概要を知り、アプローチに熟知する。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 論文を読んでいく。そのためには相当の研究時間が必要となることに留意しなければならない。				
<b>【 授業（指導）計画 】</b> 論文を20本読む。ディスカッションを行う。また小論文の執筆を指導する。修士論文執筆への基礎となる。				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> ・事前に配布する論文（英文20ページ前後、日本語論文30ページ前後）を通読し、疑問点等を洗い出しておく。 （合計30h） ・期末レポートの作成（合計30h）				
<b>【 評価基準 】</b> 小論文で評価する。				
<b>【 教材等 】</b> 授業中に配布する。			<b>【 備考 】</b> 学会発表をめざしましょう！	

科目名	配当年次	開講期	単位数	担当者
英米言語文化特論ⅦA (言語学) Topics in English Language and Cultures ⅦA (Linguistics) (2015年度・2014年度以前入学者用)	1	前期	2	ゴトウ カズアキ 後藤 一章
<b>【授業(指導)概要・目的】</b> この講義では、現代英語の語彙や統語にかかわる諸問題を、コーパス言語学の観点から検証する。				
<b>【到達目標】</b> 英語の語彙の用法やパタンなどを、電子コーパスを用いて実証的に研究するための基礎力を養う。				
<b>【指導方法と留意点】</b> コーパス言語学の入門書や論文を読んでいく。基本的に扱う資料は英文なので、相応の予習・復習が必要となる。				
<b>【授業(指導)計画】</b> 資料の輪読を行い、毎時間、ディスカッションを行う。最終的に全体の内容をレポートにまとめる。				
<b>【事前・事後学習課題】</b> 各回の指定教材を予め通読のうえ、要点を整理し、発表の準備をしておくこと。また、日頃から自らの考えをまとめておき、中間、及び期末課題に備えること(合計30h)。				
<b>【評価基準】</b> 授業時のパフォーマンスとレポートを基本に評価する。				
<b>【教材等】</b> 授業中に配布する。			<b>【備考】</b>	

科目名	配当年次	開講期	単位数	担当者
英米言語文化特論ⅦB (言語学) Topics in English Language and Cultures ⅦB (Linguistics) (2015年度・2014年度以前入学者用)	1	後期	2	ゴトウ カズアキ 後藤 一章
<b>【授業(指導)概要・目的】</b> 英米言語文化特論ⅦAで学んだコーパス言語学の理論をベースに、実際に電子コーパスを用いて研究を行う。最終的に、学会発表ができるレベルを目指す。				
<b>【到達目標】</b> コーパス分析を行うための、コンピュータリテラシを身につける。				
<b>【指導方法と留意点】</b> PCを使ったコーパスの使用方法を指導する。また統計処理についても指導する。				
<b>【授業(指導)計画】</b> コーパス分析の様々な手法を学び、それらの手法を用いて実際に各自で研究論文を執筆する。				
<b>【事前・事後学習課題】</b> 各回の指定教材を予め通読のうえ、要点を整理し、発表の準備をしておくこと。また、日頃から自らの考えをまとめておき、中間、及び期末課題に備えること(合計30h)。				
<b>【評価基準】</b> 授業時のパフォーマンスとレポートを基本に評価する。				
<b>【教材等】</b> 授業中に配布する。			<b>【備考】</b>	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
英米言語文化特論ⅧA (比較文化) (2015年度入学者用)	1	前期	2	ハヤシダ トシコ 林田 敏子
英米地域文化特論ⅡA (比較文化) Topics in English Language and Cultures ⅡA (Comparative Culture) (2014年度以前入学者用)				
<b>【 授業 (指導) 概要・目的 】</b> 歴史学の視点から西洋世界を中心とするジェンダー問題の諸相に迫る。第一次世界大戦期を生きた女性たちの多様な経験を追いながら、「戦う男」と「戦わない (戦えない) 女」という図式ではとらえきれない戦時のジェンダー問題について考察する。募兵活動をはじめとする戦争プロパガンダに「動員」された女性の姿を分析することで、「犠牲者」「戦いを鼓舞する者」「平和の使者」といったさまざまな女性像について考察する。				
<b>【 到達目標 】</b> 第一次世界大戦を中心とする西洋近現代史およびジェンダー史の概要をつかみ、論点を理解した上で、図像史料や手稿史料等の読解方法を習得することを目標とする。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 一次史料を含む多くの文献をもちいるため、必ず予習をして授業にのぞむこと。				
<b>【 授業 (指導) 計画 】</b> (1) 大戦研究の今、(2) 大戦とジェンダー～「戦う性」と「戦わない性」～、(3) 犠牲者としての女性～ベルギーの悲劇～、(4) 戦いを鼓舞する女～白い羽運動～、(5) 銃後の守りと戦時ヴォランティア				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> 中間発表および期末レポート作成 (合計30h)				
<b>【 評価基準 】</b> 授業への取り組み、レポート。				
<b>【 教材等 】</b> プリント配布。参考文献については適宜指示する。			<b>【 備考 】</b>	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
英米言語文化特論ⅧB (比較文化) (2015年度入学者用)	1	後期	2	ハヤシダ トシコ 林田 敏子
英米地域文化特論ⅡB (比較文化) Topics in English Language and Cultures ⅡB (Comparative Culture) (2014年度以前入学者用)				
<b>【 授業 (指導) 概要・目的 】</b> 歴史学の視点から西洋世界を中心とするジェンダー問題の諸相に迫る。第一次世界大戦期を生きた女性たちの多様な経験を追いながら、「戦う男」と「戦わない (戦えない) 女」という図式ではとらえきれない戦時のジェンダー問題について考察する。とくに、前線と銃後の境を越えて「戦った」女性たちに焦点をあて、女性部隊が巻き起こした論争やスキャンダルを通して、ジェンダーとミilitリズムの関係について考察する。				
<b>【 到達目標 】</b> 第一次世界大戦を中心とする西洋近現代史およびジェンダー史の概要をつかみ、論点を理解した上で、図像史料や手稿史料等の読解方法を習得することを目標とする。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 一次史料を含む多くの文献をもちいるため、必ず予習をして授業にのぞむこと。				
<b>【 授業 (指導) 計画 】</b> (1) 「男の聖域」への進出～「戦う」女たち～、(2) セルビア軍の女性兵士、(3) ロシアの女性兵士、(4) イギリスの「戦う」女たち～陸海軍女性部隊～、(5) 大戦・ジェンダー・ミilitリズム				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> 中間発表および期末レポート作成 (合計30h)				
<b>【 評価基準 】</b> 授業への取り組み、レポート。				
<b>【 教材等 】</b> プリント配布。参考文献については適宜指示する。			<b>【 備考 】</b>	

科目名	配当年次	開講期	単位数	担当者
欧米地域文化特論ⅠA (ヨーロッパ思想) (2015年度入学者用)	1	前期	2	アリマゼン仔 有馬 善一
英米言語文化特論ⅧA (ヨーロッパ思想) Topics in English Language and Cultures ⅧA (European Ideas) (2014年度以前入学者用)				
<b>【授業(指導)概要・目的】</b> ヨーロッパは近代化をいち早く成し遂げることで、世界史をリードする存在となった。しかし、近代化の運動そのものは、ヨーロッパという一地域に限定されるものではなく、近代的な人間観、資本主義と産業社会の発達、科学・技術の進歩は、やがて地球的規模に拡大し、現代においてはかつて植民地として欧米に支配されていた地域の隆盛をみるに至っている。 本講義では近代を特徴付けている「近代性」とは何であったのかという問題提起から始めて、「もはや近代ではない」と言われる現代のポストモダン的な動向の本質に関する考察まで議論を展開したい。				
<b>【到達目標】</b> 近代性とは何か、近代的な人間とはいかなるものかについて理解する。				
<b>【指導方法と留意点】</b> 教科書を用いないノートによる講義形式。参加者の積極的な発言も期待する。				
<b>【授業(指導)計画】</b> 自由主義と資本主義の発達 合理主義と科学・技術の進歩 近代的な人間の誕生				
<b>【事前・事後学習課題】</b> 授業中に参考書を指示するので、授業をまとめた上で、レポートを作成すること。(45時間) また、問題となるトピックについて事前に調べる課題を出す。(15時間)				
<b>【評価基準】</b> 出席とレポートによって判定。				
<b>【教材等】</b> 適宜配布する。			<b>【備考】</b>	

科目名	配当年次	開講期	単位数	担当者
欧米地域文化特論ⅠB (ヨーロッパ思想) (2015年度入学者用)	1	後期	2	アリマゼン仔 有馬 善一
英米言語文化特論ⅧB (ヨーロッパ思想) Topics in English Language and Cultures ⅧB (European Ideas) (2014年度以前入学者用)				
<b>【授業(指導)概要・目的】</b> ヨーロッパは近代化をいち早く成し遂げることで、世界史をリードする存在となった。しかし、近代化の運動そのものは、ヨーロッパという一地域に限定されるものではなく、近代的な人間観、資本主義と産業社会の発達、科学・技術の進歩は、やがて地球的規模に拡大し、現代においてはかつて植民地として欧米に支配されていた地域の隆盛をみるに至っている。 本講義では近代を特徴付けている「近代性」とは何であったのかという問題提起から始めて、「もはや近代ではない」と言われる現代のポストモダン的な動向の本質に関する考察まで議論を展開したい。				
<b>【到達目標】</b> ポスト・モダンとは何かということを理解し、ポスト・モダンの状況の問題性を把握する。				
<b>【指導方法と留意点】</b> 教科書を用いないノートによる講義形式。参加者の積極的な発言も期待する。				
<b>【授業(指導)計画】</b> 資本主義の帰結としての情報化・消費化社会 グローバル化の問題 近代的人間の〈死〉 科学・技術の暴走				
<b>【事前・事後学習課題】</b> 授業中に参考書を指示するので、授業をまとめた上で、レポートを作成すること。(45時間) また、問題となるトピックについて事前に調べる課題を出す。(15時間)				
<b>【評価基準】</b> 出席とレポートによって判定。				
<b>【教材等】</b> 適宜配布する。			<b>【備考】</b>	

科目名	配当年次	開講期	単位数	担当者
欧米地域文化特論Ⅱ A (ラテンアメリカ文化) (2015年度入学者用)	1	前期	2	シハラアト 篠原 愛人
英米地域文化特論Ⅰ A (ラテンアメリカ文化) Topics in English Speaking Areas and Cultures Ⅰ A (Latin-American Culture) (2014年度以前入学者用)				
<b>【授業(指導)概要・目的】</b> 多くの日本人にとってラテンアメリカは遠い存在であろうが、アメリカ合衆国にとってはきわめて近い地域であり、経済的・政治的にも大きな意味を持ってきたし、今なお、また今後も重大な役割を果たすはずである。それにもかかわらず、言語の違いだけでなく、文化の差異も大きいいため、なかなか理解しがたい存在のようである。この授業では、ヨーロッパとアメリカ合衆国・ラテンアメリカの関係がどのように築かれ、互いをどのように理解してきたのかを考察する。				
<b>【到達目標】</b> 16世紀のヨーロッパ人の空間認識の変容についての全般的な理解				
<b>【指導方法と留意点】</b> 関連した論文(英語もしくは日本語)あるいは一次史料(英語訳または和訳。場合によってはスペイン語)を読む。				
<b>【授業(指導)計画】</b> 15、16世紀にアメリカ大陸に進出したヨーロッパ人は、アメリカの自然、人間、文化などを観察し、記録を残した。特に先住民をキリストに改宗させる使命を負った修道士は、先住民の言語・文化研究に心血を注いだ。修道士が残した記録を読み、双方が相手の文化をどのように理解しようとしたかを考察する。				
<b>【事前・事後学習課題】</b> 予め指定しておいた範囲について発表できる状態にし、レジュメを用意しておくこと。1つの論文・史料を読み終えると、その内容を手短かに説明できるようにしておくこと。				
<b>【評価基準】</b> 授業への参加度とレポートによる。				
<b>【教材等】</b> 必要に応じ、配布する。			<b>【備考】</b>	

科目名	配当年次	開講期	単位数	担当者
欧米地域文化特論Ⅱ B (ラテンアメリカ文化) (2015年度入学者用)	1	後期	2	シハラアト 篠原 愛人
英米地域文化特論Ⅰ B (ラテンアメリカ文化) Topics in English Speaking Areas and Cultures Ⅰ B (Latin-American Culture) (2014年度以前入学者用)				
<b>【授業(指導)概要・目的】</b> 多くの日本人にとってラテンアメリカは遠い存在であろうが、アメリカ合衆国にとってはきわめて近い地域であり、経済的・政治的にも大きな意味を持ってきたし、今なお、また今後も重大な役割を果たすはずである。それにもかかわらず、言語の違いだけでなく、文化の差異も大きいいため、なかなか理解しがたい存在のようである。この授業ではヨーロッパとアメリカ合衆国・ラテンアメリカの関係がどのように築かれ、互いをどのように理解してきたのかを考察する。				
<b>【到達目標】</b> 16世紀のヨーロッパ人の異文化理解・他者認識の変容についての全般的な理解				
<b>【指導方法と留意点】</b> 時代背景や問題点についての講義を行い、関連した論文(英語もしくは日本語)を読む。				
<b>【授業(指導)計画】</b> 15、16世紀にアメリカ大陸に進出したヨーロッパ人は、アメリカの自然、人間、文化などを観察し、記録を残した。その当時の、つまりルネサンス期のヨーロッパ社会の異文化理解が、スペインやポルトガルの海外進出、征服の拡大に伴ってどのように変化したかを講義し、当時の文献(和訳されたもの)を通してヨーロッパ人の異文化理解・他者認識のあり方を探る。また、できればその問題を扱った論文を読み、論じる。				
<b>【事前・事後学習課題】</b> 予め指定された範囲について発表できるよう、レジュメを用意しておくこと。1つの論文あるいは史料を読み終えると、その内容について簡単に説明できるようにしておく。				
<b>【評価基準】</b> 授業への参加度とレポートによる。				
<b>【教材等】</b> 必要に応じて配布する。			<b>【備考】</b>	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
欧米地域文化特論ⅢA (欧米政治思想) (2015年度入学者用)	1	前期	2	
英米地域文化特論ⅢA (欧米政治思想) Topics in English Speaking Areas and Cultures ⅢA (Political Philosophy of Europe and America) (2014年度以前入学者用)				
<b>【 授業 (指導) 概要・目的 】</b> 英米地域文化は世界の人々をひきつけている。たとえばデモクラシーが世界中で一様に望ましいものとして受け入れられているのは、その顕著な現われの一つと言える。本科目では、欧米政治思想についての理解を深めることを通じて、そのような英米地域文化の特性を、内在的かつ批判的に把握することを目指す。 具体的には、人間および、人間の活動について欧米の思想家たちが思索した成果を読んで、理解していく。				
<b>【 到達目標 】</b> 英米地域文化の特性の一つとしての欧米政治思想について、内在的に理解し、批判的に解釈できるようになる。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 英文の原典読解を行います。				
<b>【 授業 (指導) 計画 】</b> Th. Hobbes, <i>Elements of Philosophy</i> を読んでいきます。				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> 各回のテキスト指定部分の読解準備に各2h合計30h。学期末レポート作成に30h。				
<b>【 評価基準 】</b> 学期末提出のレポート。				
<b>【 教 材 等 】</b> webで公開されているテキストを使用します。			<b>【 備考 】</b>	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
欧米地域文化特論ⅢB (欧米政治思想) (2015年度入学者用)	1	後期	2	
英米地域文化特論ⅢB (欧米政治思想) Topics in English Speaking Areas and Cultures ⅢB (Political Philosophy of Europe and America) (2014年度以前入学者用)				
<b>【 授業 (指導) 概要・目的 】</b> 英米地域文化は世界の人々をひきつけている。たとえばデモクラシーが世界中で一様に望ましいものとして受け入れられているのは、その顕著な現われの一つと言える。本科目では、欧米政治思想についての理解を深めることを通じて、そのような英米地域文化の特性を、内在的かつ批判的に把握することを目指す。 具体的には、人間および、人間の活動について欧米の思想家たちが思索した成果を読んで、理解していく。				
<b>【 到達目標 】</b> 英米地域文化の特性の一つとしての欧米政治思想について、内在的に理解し、批判的に解釈できるようになる。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 英文の原典読解を行います。				
<b>【 授業 (指導) 計画 】</b> Th. Hobbes, <i>Elements of Philosophy</i> を読んでいきます。				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> 各回のテキスト指定部分の読解準備に各2h合計30h。学期末レポート作成に30h。				
<b>【 評価基準 】</b> 学期末提出のレポート。				
<b>【 教 材 等 】</b> webで公開されているテキストを使用します。			<b>【 備考 】</b>	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
欧米地域文化特論ⅣA (多文化社会論) (2015年度入学者用)	1	前期	2	ホジヨウユカリ 北條 ゆかり
英米地域文化特論ⅣA (多文化社会論) Topics in English Speaking Areas and Cultures IVA (Multiculturalism) (2014年度以前入学者用)				
<b>【 授業 (指導) 概要・目的 】</b>				
<p>民族・人種問題の複合化は不断に進行しており、それに由来する問題が世界の各地で顕在化している。人びとの現実の生活がますます多文化併存の傾向を強めているのだとも言える。「多人種・多民族」「複数言語」という条件が社会と向き合うための基本的な「文法」にならざるをえないグローバリゼーション下では、「多文化主義」は差異の権利の実現というよりは、新たな国民統合の形態として受け入れられつつある（もちろん歴史的背景による地域差はあるが）。多文化主義とはひとつの理念であると同時に歴史的現実であり、問題の解決ではなく、新たな問題の始まりと理解しうる。この授業では、すでにNAFTA（スペイン語ではTLCAN）という地域共同体を成す北米3ヶ国の中で展開されてきた政治経済的交渉とその現状、および人の移動がもたらす異文化間関係について取り上げる。</p>				
<b>【 到達目標 】</b>				
<p>基本文献に相当する歴史社会学および政治哲学の理論書を読み、国や地域によって異なる多文化主義の由来や解釈・位置づけを理解する。</p>				
<b>【 指導方法と留意点 】</b>				
<p>指示された文献を読みこなし、要旨・核心を押さえ、それをもとに自分の考えを批判的に論述するといった作業を積み重ねていく。テーマをどこまで深く掘り下げられるかは、受講生自身の読書量にかかっている。</p>				
<b>【 授業 (指導) 計画 】</b>				
<p>0. 序論：多文化主義とはなにか  1. その背景としてのグローバリゼーションおよび「内面化された」植民地主義：EU、米国、ラテンアメリカ、日本  2. 政策としての多文化・多言語主義：カナダ・オーストラリア（国是として取り入れた先進国）と米国の比較  3. 運動としての多文化主義：多様なマイノリティの文化的多様性と権利擁護  4. 民主主義、市民のあり方の新しい方向性：国民国家はどう変わるか（グローバリズムとリージョナリズム）、マイノリティと社会構造  5. NAFTA/TLCAN圏の生成と課題</p>				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b>				
<p>予め配布された教材を読み、論点を整理しておくこと。授業終了後は自らの考えをまとめ、中間レポートおよび期末レポートの作成に備えること。</p>				
<b>【 評価基準 】</b>				
<p>授業にいかに関与しているか、すなわち授業時間外の成果を問い、その反映を授業中の議論とレポートにみる。</p>				
<b>【 教材等 】</b>			<b>【 備考 】</b>	
<p>必要に応じて配布するほか、授業の進度に応じて各テーマに即した文献を提示する。</p>				

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
欧米地域文化特論ⅣB (多文化社会論) (2015年度入学者用)	1	後期	2	ホウジョウ ユカリ 北條 ゆかり
英米地域文化特論ⅣB (多文化社会論) Topics in English Speaking Areas and Cultures ⅣB (Multiculturalism) (2014年度以前入学者用)				
<b>【 授業 (指導) 概要・目的 】</b> 民族・人種問題の複合化は不断に進行しており、それに由来する問題が世界の各地で顕在化している。人びとの現実の生活がますます多文化併存の傾向を強めているのだとも言える。「多人種・多民族」「複数言語」という条件が社会と向き合うための基本的な「文法」にならざるをえないグローバリゼーション下では、「多文化主義」は差異の権利の実現という理念としてよりは、新たな国民統合の形態として受け入れられつつある（もちろん歴史的背景による地域差はあるが）。多文化主義とはひとつの理念であり、歴史的現実から生じた新たな問題提起の姿勢であると考えられる。この授業では、多文化化するさまざまな社会においてみられる、位相の異なる対立がもたらす諸問題を個別に取り上げ、現代世界が直面している課題を歴史文化学・国際社会学の観点と理論から読み解く。				
<b>【 到達目標 】</b> 個別・具体的な状況把握をもとにして、国民国家を維持しつつ「超民族国家」による「ネオ・リベラリズムと真の意味で対決しうる新たなインターナショナリズム」(P・ブルデュー)の創出はいかにして可能となるのか、考察し自分なりの答えを導く。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 指示された文献を読みこなし、要旨・核心を押さえ、それをもとに自分の考えを既存の通念や学説に対して批判的に論述するといった作業を積み重ねていく。テーマをどこまで深く掘り下げられるかは、学生自身の読書量にかかっている。				
<b>【 授業 (指導) 計画 】</b> 最初に、ラテンアメリカからの対米移民の人権問題について、最新の研究動向を押さえる。 つぎに、日本社会の多文化化に焦点を当てる。はじめに、その背景にある現代日本が抱える課題を、少子化、高齢化、労働問題、格差問題などの側面から掘り起こし考察する。さらに、外国人労働力の必要性和受け入れをめぐる賛否両論の論点を検証し、実際に多文化化が進行しつつある学校教育の現場に着目し、外国人労働者の子弟たちが置かれている状況について調査を実施しつつ、問題の所在を明らかにし、改善に向けた提言を行うまでに至る。 (修士論文指導)				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> 予め配布された教材を読み、論点を整理しておくこと。授業終了後は自らの考えをまとめ、中間レポートおよび期末レポートの作成に備えること。				
<b>【 評価基準 】</b> 授業にいかに関与しているか、すなわち授業時間外の成果を問い、その反映を授業中の議論とレポートにみる。				
<b>【 教材等 】</b> 必要に応じて配布するほか、授業の進度に応じて各テーマに即した文献を提示する。			<b>【 備考 】</b>	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
欧米言語文化研究総合演習 I (2015年度入学者用)	1	前期	2	下記指導担当者参照
英米言語文化研究総合演習 I Seminar on English Language and Cultures I (2014年度以前入学者用)				
<b>【 授業（指導）概要・目的 】</b> 総合演習 I は英米の地域を中心とした言語・文化・思想・歴史と多岐にわたった領域にまたがっており、各々専門の研究者の指導の下、大学院学生として各自の研究テーマにそった指導を受ける。特に、演習 I は今後2年間の指導計画を実施する準備段階であり、各指導研究者と徹底的に研究の方向と方法について議論を深めることが大事である。今学期はそのための入門指導を精密に実施し、研究倫理について理解し、今後の研究の指針を構築する。				
<b>【 到達目標 】</b> 各自の研究テーマを掘り下げ、実現可能な計画の下理論的かつ実践的な基礎知識を養う。 論文作成や資料収集における研究倫理のあり方を理解する。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 各研究者の指示に従う。				
<b>【 授業（指導）計画 】</b> 各自の研究テーマに則して、最先端の基礎知識を理論的かつ実践的にとり組めるよう、効率よく研究できる最適な方法を通して指導するが、各分野の授業計画については各指導研究者が行う。				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> 【事前】 資料収集・論文作成など各自に必要な作業を行う。 【事後】 指導教員に指摘された箇所を検討し、修正する。				
<b>【 評価基準 】</b> 各指導研究者の指示に従う。				
<b>【 教材等 】</b> 各研究指導者の指示に従う。			<b>【 指導担当者 】</b> 篠原 愛人、北條 ゆかり、家口 美智子、 住吉 誠、西川 眞由美、Sean McGovern、 林田 敏子	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
欧米言語文化研究総合演習 II (2015年度入学者用)	1	後期	2	下記指導担当者参照
英米言語文化研究総合演習 II Seminar on English Language and Cultures II (2014年度以前入学者用)				
<b>【 授業（指導）概要・目的 】</b> 総合演習 II は総合演習 I の基礎の上に、さらにディスカッション・文献研究等を通して各自の研究テーマを深め、応用する能力を養う。				
<b>【 到達目標 】</b> 各研究テーマの理解とその知識を応用する能力を学ぶ。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 各指導研究者の指示に従う。				
<b>【 授業（指導）計画 】</b> 各指導研究者の下、理論的かつ実践的な応用力を身につける最適な方法を基に指導計画を設定するが、各分野の授業計画については各指導研究者が行う。				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> 【事前】 資料収集・論文作成など各自に必要な作業を行う。 【事後】 指導教員に指摘された箇所を検討し、修正する。				
<b>【 評価基準 】</b> 各指導研究者の指示に従う。				
<b>【 教材等 】</b> 各指導研究者に指示に従う。			<b>【 指導担当者 】</b> 篠原 愛人、北條 ゆかり、家口 美智子、 住吉 誠、西川 眞由美、Sean McGovern、 林田 敏子	

科目名	配当年次	開講期	単位数	担当者
欧米言語文化研究総合演習Ⅲ (2015年度入学者用)	2	前期	2	下記指導担当者参照
英米言語文化研究総合演習Ⅲ Seminar on English Language and Cultures Ⅲ (2014年度以前入学者用)				
<b>【授業(指導)概要・目的】</b> 総合演習Ⅰ、Ⅱの内容をさらに精密に研究し、指導研究者の指導に基づいて、修士論文作成の準備に取りかかる。				
<b>【到達目標】</b> 各自の研究テーマについて、修士論文に向けて明確な方向性をもつ。				
<b>【指導方法と留意点】</b> 各指導研究者の指示に従う。				
<b>【授業(指導)計画】</b> 各指導研究者の指導の下、各自の研究テーマを修士論文の作成に向け効果的な指導をする。				
<b>【事前・事後学習課題】</b> 【事前】資料収集・論文作成など各自に必要な作業を行う。 【事後】指導教員に指摘された箇所を検討し、修正する。				
<b>【評価基準】</b> 各指導研究者の指示に従う。				
<b>【教材等】</b> 各指導研究者の指示に従う。			<b>【指導担当者】</b> 篠原 愛人、北條 ゆかり、家口 美智子、 住吉 誠、西川 眞由美、Sean McGovern、 林田 敏子	

科目名	配当年次	開講期	単位数	担当者
欧米言語文化研究総合演習Ⅳ (2015年度入学者用)	2	後期	2	下記指導担当者参照
英米言語文化研究総合演習Ⅳ Seminar on English Language and Cultures Ⅳ (2014年度以前入学者用)				
<b>【授業(指導)概要・目的】</b> 各指導研究者の下、基礎文献・参考文献等、適切な選択をした上で各自のテーマを自分の視点で論文として完成することを目指す。				
<b>【到達目標】</b> 修士論文の完成。				
<b>【指導方法と留意点】</b> 各指導研究者の指示に従う。				
<b>【授業(指導)計画】</b> 修士論文が完成できるよう、論文の中間発表、完成原稿の校正等、指導研究者との綿密な検討可能な計画を設定する。				
<b>【事前・事後学習課題】</b> 【事前】資料収集・論文作成など各自に必要な作業を行う。 【事後】指導教員に指摘された箇所を検討し、修正する。				
<b>【評価基準】</b> 各指導研究者の指示に従う。				
<b>【教材等】</b> 各指導研究者の指示に従う。			<b>【指導担当者】</b> 篠原 愛人、北條 ゆかり、家口 美智子、 住吉 誠、西川 眞由美、Sean McGovern、 林田 敏子	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
アジア言語文化特論ⅡA (日中比較文学) (2015年度入学者用)	1	前期	2	セトヒロシ 瀬戸 宏
東アジア言語文化特論ⅡA (日中比較文学) Topics in East Asian Languages and Cultures ⅡA (Japan China Comparative Literature) (2014年度以前入学者用)				
<b>【 授業 (指導) 概要・目的 】</b> 中国と日本の近代文学を比較研究する。比較の対象は近現代文学の成立期、発展期、第二次世界大戦後の前衛芸術などさまざまである。この講義では、日本と中国の各時期の特徴的な傾向を比較し、その共通点と相違点を探る。				
<b>【 到達目標 】</b> 日・中文学の共通点と相違点が理解できる。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 大学院の授業であるから、予習を必ずしてくること。				
<b>【 授業 (指導) 計画 】</b> 授業概要・目的の内容とあう論文を選び、講読していく。その過程で、ビデオなど視聴覚資料も鑑賞する。				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> 各回の指定教材をあらかじめ通読し、内容をまとめておくこと。重要な事項は事前に調べておくこと。				
<b>【 評価基準 】</b> 受講状況およびレポート				
<b>【 教 材 等 】</b> 瀬戸宏『中国演劇の二十世紀』(東方書店)およびプリント			<b>【 備考 】</b>	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
アジア言語文化特論ⅡB (日中比較文学) (2015年度入学者用)	1	後期	2	セトヒロシ 瀬戸 宏
東アジア言語文化特論ⅡB (日中比較文学) Topics in East Asian Languages and Cultures ⅡB (Japan China Comparative Literature) (2014年度以前入学者用)				
<b>【 授業 (指導) 概要・目的 】</b> 東アジア言語文化特論ⅡA (前期) の授業内容を発展させ、引き続き日中比較文学について考えていく。				
<b>【 到達目標 】</b> 日中比較文学の共通点と相違点が理解できる。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 大学院の授業であるから、予習を必ずしてくること。				
<b>【 授業 (指導) 計画 】</b> 授業概要・目的の内容とあう論文を選び、講読していく。その過程で、ビデオなど視聴覚資料も鑑賞する。				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> 各回の指定教材をあらかじめ通読し、内容をまとめておくこと。重要な事項は事前に調べておくこと。				
<b>【 評価基準 】</b> 受講状況およびレポート				
<b>【 教 材 等 】</b> 瀬戸宏『中国演劇の二十世紀』(東方書店)およびプリント			<b>【 備考 】</b>	

科目名	配当年次	開講期	単位数	担当者
アジア言語文化特論ⅢA (比較言語学) (2015年度入学者用)	1	前期	2	ヤマガチ マサオ 山口 真佐夫
東アジア言語文化特論ⅢA (比較言語学) Topics in East Asian Languages and Cultures ⅢA (Comparative Linguistics) (2014年度以前入学者用)				
<b>【 授業 (指導) 概要・目的 】</b> この授業では、ヨーロッパにおいて始まった比較言語学の歴史を概観し、その後他の地域の言語に対してどのように応用されてきたかを概観する、また、研究方法を紹介する。さらに音韻対応、故地等の比較言語学で扱われるテーマについても紹介する。語彙統計学、言語年代学についても基礎的な説明を行う。				
<b>【 到達目標 】</b> 言語学の一分野である比較言語学に関する基本的知識の習得できる。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 授業中に受講者の意見を求めるので、意欲的に発言してもらいたい。				
<b>【 授業 (指導) 計画 】</b> 先ず、比較言語学の歴史、発展を概観する。その後、比較言語学の研究方法の基礎、関連するテーマを説明する。				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> 指示された予習、復習を必ずするように。 最終回の発表に備え、準備を行っておくこと。				
<b>【 評価基準 】</b> 授業中の発言および発表。				
<b>【 教材等 】</b> プリントを用意する。			<b>【 備考 】</b>	

科目名	配当年次	開講期	単位数	担当者
アジア言語文化特論ⅢB (比較言語学) (2015年度入学者用)	1	後期	2	ヤマガチ マサオ 山口 真佐夫
東アジア言語文化特論ⅢB (比較言語学) Topics in East Asian Languages and Cultures ⅢB (Comparative Linguistics) (2014年度以前入学者用)				
<b>【 授業 (指導) 概要・目的 】</b> オーストロネシア語族、西部マライポリネシア語派の言語を例に比較言語学の目的である祖語の再構 (再建) を行う。さらに比較言語学に基づいて言語の系統についての研究を行う。なお、比較言語学以外にも対照言語学、言語人類学等の周辺分野についても説明する。				
<b>【 到達目標 】</b> 比較言語学の基本的な作業である音韻比較、祖語の再構 (再建) についての知識を習得できる。 比較言語学の周辺分野についても知識を得ることができる。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 授業中に受講者の意見を求めるので、意欲的に発言してもらいたい。				
<b>【 授業 (指導) 計画 】</b> オーストロネシア語族・西部マライポリネシア語派に属する言語についての知識を得た上で、実際に祖語の再建を行う。また、適宜周辺分野に付いての説明を行う。				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> 指示された予習、復習を必ずするように。 最終回の発表に備え、準備を行っておくこと。				
<b>【 評価基準 】</b> 授業中の発言および発表。				
<b>【 教材等 】</b> プリントを用意する。			<b>【 備考 】</b>	

科目名	配当年次	開講期	単位数	担当者
アジア言語文化特論ⅣA (日本文学) (2015年度入学者用)	1	前期	2	オガワトヨオ 小川 豊生
東アジア言語文化特論ⅣA (日本文学) Topics in East Asian Languages and Cultures ⅣA (Japanese Literature) (2014年度以前入学者用)				
<b>【授業(指導)概要・目的】</b> 日本の言語文化をかたちづくる本質的な特質を知るうえで、文学領域に対する理解は不可欠であるといつてよい。日本における伝統的なものの形成について、代表的なテキストの読解を通じて明らかにする。日本の作品が中心となるが、東アジアの作品も視野に入れつつ、比較文化的な視点からすすめていきたい。				
<b>【到達目標】</b> 日本の文学伝統の総合的把握と個別作品に対する読解力の養成。				
<b>【指導方法と留意点】</b> 取り上げる作品については、受講生の関心に即して設定する。				
<b>【授業(指導)計画】</b> 1 対象とするテキストの設定 2 作品の全体像の把握 3 読解の対象とする箇所(絞込み) 4 作品研究に有益な文献・論文の収集と読み込み 5 受講者独自のテーマの発見と設定 6 独自テーマにもとづくレポートの作成				
<b>【事前・事後学習課題】</b> 【事前】重要語句のリサーチ。【事後】講義のまとめと自らのテーマとの関連を考察する。				
<b>【評価基準】</b> 受講状況およびレポートによる評価。				
<b>【教材等】</b> 授業時に指示する。			<b>【備考】</b>	

科目名	配当年次	開講期	単位数	担当者
アジア言語文化特論ⅣB (日本文学) (2015年度入学者用)	1	後期	2	オガワトヨオ 小川 豊生
東アジア言語文化特論ⅣB (日本文学) Topics in East Asian Languages and Cultures ⅣB (Japanese Literature) (2014年度以前入学者用)				
<b>【授業(指導)概要・目的】</b> 日本の言語文化をかたちづくる本質的な特性を、物語、民話・昔話、伝説等のジャンルを中心に探求する。日本の文化・文学の伝統がどのように形成されてきたのか、日本人の思考や感性の特質とはなにか、美術や宗教や思想の領域も視野にいれつつ考察をすすめたい。				
<b>【到達目標】</b> 設定されたテーマに即した、資料の分析と論理構成の錬成、および論文作成能力の習得。				
<b>【指導方法と留意点】</b> まず、古代・中世という時代の文学状況をトータルに把握する。そのうえで受講者の関心に即して具体的な作品を選定し、さらに細分の読解を試み、先端的な研究状況を視野に入れつつ、独自のテーマを発見することをめざしたい。				
<b>【授業(指導)計画】</b> 1 対象とするテキストの設定 2 作品の全体像の把握 (古典作品の場合は現代語訳・入門書等を参照する) 3 読解の対象とする箇所(絞込み) 4 作品研究に有益な文献・論文の収集と読み込み 5 受講者独自のテーマの発見と設定 6 独自テーマにもとづくレポートの作成				
<b>【事前・事後学習課題】</b> 【事前】重要語句のリサーチ。【事後】講義のまとめと自らのテーマとの関連を考察する。				
<b>【評価基準】</b> 受講状況およびレポートによる評価。				
<b>【教材等】</b> 授業時に指示する。			<b>【備考】</b>	

科目名	配当年次	開講期	単位数	担当者
アジア言語文化特論VA (日本語学) (2015年度入学者用)	1	前期	2	ハシモト マサシ 橋本 正俊
東アジア言語文化特論VA (日本語学) Topics in East Asian Languages and Cultures VA (Japanese Linguistics) (2014年度以前入学者用)				
<b>【授業(指導)概要・目的】</b> 日本語学に関する様々な文献を取り上げて論じる。 特に上代から中世(8世紀から14世紀)の国語資料及び国語学資料を取り上げる。また、研究文献も取り上げて、日本語研究の問題点について考察する。 日本語史についての正確な知識を得ることを目的とする。				
<b>【到達目標】</b> 様々な日本語文献について説明できるようになる。				
<b>【指導方法と留意点】</b> 資料及び文献を講読し、論じる。そこから諸問題を取り上げて、意見交換をする。				
<b>【授業(指導)計画】</b> ・資料の紹介と講読 ・研究文献の紹介と講読 ・上記についての意見交換 これらを繰り返す。				
<b>【事前・事後学習課題】</b> ・事前に購読予定の資料を通読の上、疑問点をまとめておく。事後に資料を再読しレポートに備える。 ・レポートの作成。(合計30h)				
<b>【評価基準】</b> 受講状況およびレポート等により総合的に評価する。				
<b>【教材等】</b> 授業時に指示する。			<b>【備考】</b>	

科目名	配当年次	開講期	単位数	担当者
アジア言語文化特論VB (日本語学) (2015年度入学者用)	1	後期	2	ハシモト マサシ 橋本 正俊
東アジア言語文化特論VB (日本語学) Topics in East Asian Languages and Cultures VB (Japanese Linguistics) (2014年度以前入学者用)				
<b>【授業(指導)概要・目的】</b> 日本語学に関する様々な文献を取り上げて論じる。 特に中世から近代(15世紀から19世紀)の国語資料及び国語学資料を取り上げる。また、研究文献も取り上げて、日本語研究の問題点について考察する。 日本語史についての正確な知識を得ることを目的とする。				
<b>【到達目標】</b> 様々な日本語文献について説明できるようになる。				
<b>【指導方法と留意点】</b> 資料及び文献を講読し、論じる。そこから諸問題を取り上げて、意見交換をする。				
<b>【授業(指導)計画】</b> ・資料の紹介と講読 ・研究文献の紹介と講読 ・上記についての意見交換 これらを繰り返す。				
<b>【事前・事後学習課題】</b> ・事前に購読予定の資料を通読の上、疑問点をまとめておく。事後に資料を再読しレポートに備える。 ・レポートの作成。(合計30h)				
<b>【評価基準】</b> 受講状況およびレポート等により総合的に評価する。				
<b>【教材等】</b> 授業時に指示する。			<b>【備考】</b>	

科目名	配当年次	開講期	単位数	担当者
アジア言語文化特論VIA (日本語教育) (2015年度入学者用)	1	前期	2	か'ワキ カオル 門脇 薫
東アジア言語文化特論VIA (日本語教育) Topics in East Asian Languages and Cultures VIA (Japanese Language Teaching) (2014年度以前入学者用)				
<b>【 授業 (指導) 概要・目的 】</b> 第2言語としての日本語の習得研究の観点から、日本語教育に関わる種々の問題を見ていく。具体的には、第2言語習得 (Second Language Acquisition: SLA) の理論、外国人学習者の日本語の習得過程、日本語の習得研究、第2言語習得研究と日本語指導等について取り上げる。				
<b>【 到達目標 】</b> 言語習得及び語学教育に関する知識を得、日本語及び資料を分析する力を養う。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 文献及び資料を講読し、諸問題について討論する。また各自の課題発表について意見交換を行う。				
<b>【 授業 (指導) 計画 】</b> 文献及び資料の講読・討論・課題に関する調査分析及び発表。				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> 指定された文献及び資料を読み、論点を把握し授業で議論ができるよう自分なりの考えをまとめておく。発表担当者はレジュメを作成し発表準備を行う。授業後は授業での意見交換した内容をふまえてまとめのレポートを書く。				
<b>【 評価基準 】</b> 授業における討論・発表・レポート等により総合的に評価する。				
<b>【 教材等 】</b> 授業時に指示する。			<b>【 備考 】</b>	

科目名	配当年次	開講期	単位数	担当者
アジア言語文化特論VIB (日本語教育) (2015年度入学者用)	1	後期	2	か'ワキ カオル 門脇 薫
東アジア言語文化特論VIB (日本語教育) Topics in East Asian Languages and Cultures VIB (Japanese Language Teaching) (2014年度以前入学者用)				
<b>【 授業 (指導) 概要・目的 】</b> 第2言語としての日本語の習得研究の観点から、日本語教育に関わる種々の問題を見ていく。具体的には、第2言語習得 (Second Language Acquisition: SLA) の理論、外国人学習者の日本語の習得過程、日本語の習得研究、第2言語習得研究と日本語指導等について取り上げる。				
<b>【 到達目標 】</b> 言語習得及び語学教育に関する知識を得、日本語及び資料を分析する力を養う。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 文献及び資料を講読し、諸問題について討論する。また各自の課題発表について意見交換を行う。				
<b>【 授業 (指導) 計画 】</b> 文献及び資料の講読・討論・課題に関する調査分析及び発表。				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> 関連するテーマについて文献・資料収集を行う。授業前に文献及び資料を読み、論点を把握し授業で議論ができるよう自分なりの考えをまとめておく。発表担当者はレジュメを作成し発表準備を行う。授業後は授業での意見交換した内容をふまえてまとめのレポートを書く。				
<b>【 評価基準 】</b> 授業における討論・発表・レポート等により総合的に評価する。				
<b>【 教材等 】</b> 授業時に指示する。			<b>【 備考 】</b>	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
アジア地域文化特論 I A (中国芸術) (2015年度入学者用)	1	前期	2	伊 東 テツオ 伊 東 徹夫
東アジア地域文化特論 I A (中国芸術) Topics in East Asian Areas and Cultures IA (2014年度以前入学者用)				
<b>【 授業 (指導) 概要・目的 】</b> この講義では、中国の陶磁の特質を論じる。新石器時代から清までの中国陶磁史の基本的な知識を得る。19世紀まで日本など世界の主要な陶磁生産地に大きな影響を与え続けてきた中国陶磁の特質を理解する。京阪神地方の博物館施設の見学も行う。美術工芸を通じて、中国人の考え方や感性に対する理解を深めるのが目的である。				
<b>【 到達目標 】</b> 中国の美術、特に中国の陶磁に関する知識を得て、中国人の感性に対する理解を深める。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 講義、スライドによる美術資料の鑑賞、博物館施設などでの実地見学。				
<b>【 授業 (指導) 計画 】</b> 1 オリエンテーション 2 中国の窯址と年表 3 陶磁入門 4 新石器時代、古代 5 中世 6 近世前期 (北宋 1) 7 近世前期 (北宋 2) 8 近世前期 (南宋・金 1) 9 近世前期 (南宋・金 2) 10 近世前期 (元) 11 近世後期 (明) 12 近世後期 (清) 13 中国陶磁を展示している博物館施設 1 14 中国陶磁を展示している博物館施設 2 15 まとめ				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> <b>【事前学習】</b> 図書館の美術書のコーナー (または大型本コーナー) に美術全集や美術書があります。授業の前に講義のテーマについて下調べをしておいてください。WEBでもかまいません。 <b>【事後学習】</b> 積極的に博物館などに出かけ、授業で紹介した陶磁や美術工芸品を実際にみるよう努めてください。				
<b>【 評価基準 】</b> 受講状況とレポート。				
<b>【 教 材 等 】</b> 授業中にプリントを配布する。			<b>【 備考 】</b>	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
アジア地域文化特論 I B (中国芸術) (2015年度入学者用)	1	後期	2	伊ウ テツオ 伊東 徹夫
東アジア地域文化特論 I B (中国芸術) Topics in East Asian Areas and Cultures IB (2014年度以前入学者用)				
<b>【 授業 (指導) 概要・目的 】</b> この講義では、朝鮮半島、日本、ヨーロッパの陶磁と比較することにより、中国の陶磁の特質を論じる。陶磁以外の中国の美術工芸、さらには中国芸術の特質をも明らかにしたいと考えている。京阪神地方の博物館施設の見学も行う。美術工芸を通じて、中国人の考え方や感性に対する理解を深めるのが目的である。				
<b>【 到達目標 】</b> 中国の美術、特に中国の陶磁に関する知識を得て、中国人の感性に対する理解を深める。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 講義、スライドによる美術資料の鑑賞、博物館施設などでの実地見学。				
<b>【 授業 (指導) 計画 】</b> 1 オリエンテーション 2 東アジア年表 3 朝鮮半島の陶磁 4 日本の陶磁 (新石器時代～古代) 5 日本の陶磁 (中世) 6 侘茶 7 日本の陶磁 (近世) 桃山時代 8 日本の陶磁 (近世) 有田の磁器 9 日本の陶磁 (近世) 京都 1 10 日本の陶磁 (近世) 京都 2 11 イスラム陶磁 12 ヨーロッパ陶磁 13 中国の諸工芸 (青銅器、玉など) 14 中国の絵画、彫刻 15 まとめ				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> <b>【事前学習】</b> 図書館の美術書のコーナー (または大型本コーナー) に美術全集や美術書があります。授業の前に講義のテーマについて下調べをしておいてください。WEBでもかまいません。 <b>【事後学習】</b> 積極的に博物館などに出かけ、授業で紹介した陶磁や美術工芸品を実際にみるよう努めてください。				
<b>【 評価基準 】</b> 受講状況とレポート。				
<b>【 教材等 】</b> 授業中にプリントを配布する。			<b>【 備考 】</b>	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
アジア地域文化特論ⅡA (文化人類学) (2015年度入学者用)	1	前期	2	ウエダトオル 上田 達
東アジア地域文化特論ⅡA (文化人類学) Topics in East Asian Areas and Cultures ⅡA (Cultural Anthropology) (2014年度以前入学者用)				
<b>【 授業 (指導) 概要・目的 】</b> 文化人類学における理解がどのようなものであるかを示すことを、講義の主たる目的とする。まず、初期の文化人類学から今日にいたる学問の歴史を俯瞰しつつ、そのなかで採用されてきた理解の枠組みを素描する。そのうえで、受講者の関心も聞きながら具体的なトピックを選んで、その民族誌的な成果や意義について検討する。 授業は主に講義形式で行う。参考となる文献をあらかじめ配布するので、読んできたことを前提として内容について解説と補足を行う。また、受講者には文献の内容について報告する機会を適宜設ける。参考文献の詳細は初回の授業時に指示するが、中心となるのは以下のものである。				
綾部恒雄 (編) (2006) 『文化人類学20の理論』弘文堂 エリクセン、トーマス・ヒランド (2008) 『人類学とは何か』、世界思想社。 浜本満・浜本まり子 (編) (1994) 『人類学のコンセンサス——文化人類学入門』、学術図書出版社。 Barnard, A. & J. Spencer (eds.) (2009) <i>The Encyclopedia of Social and Cultural Anthropology(2nd edition)</i> , New York: Routledge.				
<b>【 到達目標 】</b> 文化人類学的なものの見方ができるようになることと、自らそれを用いて考えられるようになることを目指す。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 講義と受講者との文献の講読で進める。文献は日本語のものと英語のものを用いる。受講者には事前と事後の課題を出すので、積極的に取り組むことが求められる。				
<b>【 授業 (指導) 計画 】</b> 1. イントロダクション 2. 文化人類学のはじまり 3. 文化人類学の展開 4. 事例研究----親族 5. 事例研究----呪術と宗教 6. 文化人類学の展開 7. 事例研究----贈与、経済 8. 文化人類学の展開 9. 文化人類学と植民地主義 10. 事例研究----政治 11. 文化人類学の洗練 12. 事例研究----儀礼 13. 文化人類学と近代社会 14. 事例研究----都市 15. まとめ				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> 事前：受講者は指定する文献 (和文・英文) を予め読んでくること。授業時に文献に記されていることの理解度を問う課題を出す。 事後：既習事項を確認するとともに、講義中に言及した文献の該当箇所について読むこと。				
<b>【 評価基準 】</b> 授業への参加とレポートによる。詳細は初回の授業時に指示する。				
<b>【 教材等 】</b> 授業時に配布する資料を用いる。参考文献については初回に詳細を指示する。			<b>【 備考 】</b>	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
アジア地域文化特論ⅡB（文化人類学） （2015年度入学者用）	1	後期	2	ウエダトオル 上田 達
東アジア地域文化特論ⅡB（文化人類学） Topics in East Asian Areas and Cultures ⅡB (Cultural Anthropology) (2014年度以前入学者用)				
<b>【 授業（指導）概要・目的 】</b> 文化人類学における理解がどのようなものであるかを示すことを、講義の主たる目的とする。いくつかの現代的なトピックを検討することを通じて、文化人類学の理解の特質や現代におけるその意義を示す。 授業は講義を中心とする。参考となる文献をあらかじめ配布するので、読んできたことを前提として内容について解説と補足を行う。また、受講者には内容について報告する機会を設ける。参考文献の詳細は初回の授業時に指示するが、中心となるのは以下のものである。  内海博文（編）（2014）『現代社会を学ぶ——社会の再想像＝再創造のために』、ミネルヴァ書房。 春日直樹（編）（2008）『人類学で世界をみる——医療・生活・政治・経済』、ミネルヴァ書房。 Michael Herzfeld（2001） <i>Anthropology: Theoretical Practice in Culture and Society</i> , Oxford: Blackwell.				
<b>【 到達目標 】</b> 文化人類学的なものの見方ができるようになることと、自らそれを用いて考えられるようになることを目指す。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 講義と受講者との文献の講読で進める。文献は日本語のものと英語のものを用いる。受講者には事前と事後の課題を出すので、積極的に取り組むことが求められる。				
<b>【 授業（指導）計画 】</b> 1. イントロダクション 2. 文化人類学とは何か 3. 文化人類学と隣接する諸領域 4. 文化人類学の到達地点 5. 事例研究 政治----文献講読 6. 事例研究 政治----講義 7. 事例研究 市場----文献講読 8. 事例研究 市場----講義 9. 事例研究 開発----文献講読 10. 事例研究 開発----講義 11. 事例研究 医療----文献講読 12. 事例研究 医療----講義 13. 事例研究 自然と文化----文献講読 14. 文化人類学における理解 15. まとめ				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> 事前：受講者は指定する文献（和文・英文）を予め読んでおくこと。授業時に文献に記されていることの理解度を問う課題を出す。 事後：既習事項を確認するとともに、講義中に言及した文献の該当箇所について読むこと。				
<b>【 評価基準 】</b> 授業への参加とレポートによる。詳細は初回の授業時に指示する。				
<b>【 教材等 】</b> 授業時に配布する資料を用いる。参考文献については初回に詳細を指示する。			<b>【 備考 】</b>	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
アジア地域文化特論ⅢA (美術史) (2015年度入学者用)	1	前期	2	伊マカリ 岩間 香
東アジア地域文化特論ⅢA (美術史) Topics in East Asian Areas and Cultures ⅢA (History of Fine Arts) (2014年度以前入学者用)				
<b>【 授業 (指導) 概要・目的 】</b> この講義では奈良時代から江戸時代にいたる日本美術を鑑賞し、文献を講読する。毎時間、代表的な美術作品を1点取り上げ、どういふ社会状況のもとに生み出されたのか、何に用いられたのか、主題はなにか、技法の特徴などについて解説する。取り上げる分野は彫刻、絵画、工芸、建築などで、歴史的背景や作者の略歴についても紹介する。また 授業期間中に適宜、寺院、神社、美術館を实地見学し、美術作品や作品の生まれた空間を体感する。美術を通じて、日本人の考え方や感性に対する理解を深めるのが目的である。				
<b>【 到達目標 】</b> 日本の美術に関する知識を会得し、日本人の感性に対する理解を深める。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 講義、スライドによる美術資料の鑑賞、美術館や寺院などに实地見学。				
<b>【 授業 (指導) 計画 】</b> 1 オリエンテーション 2 奈良時代の仏像 3 平安時代の仏像 4 時代の絵巻物 5 鎌倉時代の彫刻 6 鎌倉時代の絵巻物 7 鎌倉時代の肖像画 8 室町時代の水墨画 9 桃山時代の障屏画 10 江戸時代の琳派画 11 江戸時代の写生画 12 江戸時代の文人画 13 江戸時代の浮世絵 14 实地見学 15 まとめ				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> <b>【事前学習】</b> 図書館の美術書のコーナー (または大型本コーナー) に美術全集や美術書があります。授業の前に講義のテーマについて下調べをしておいてください。WEBでもかまいません。 <b>【事後学習】</b> 積極的に美術館・博物館・寺院・神社などに出かけ、授業に登場した美術品を実際にみるよう努めてください。				
<b>【 評価基準 】</b> 受講態度とレポート。				
<b>【 教材等 】</b> 授業中にプリントを配布する。			<b>【 備考 】</b>	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
アジア地域文化特論ⅢB (美術史) (2015年度入学者用)	1	後期	2	伊マカサ 岩間 香
東アジア地域文化特論ⅢB (美術史) Topics in East Asian Areas and Cultures ⅢB (History of Fine Arts) (2014年度以前入学者用)				
<b>【 授業 (指導) 概要・目的 】</b> この講義では奈良時代から江戸時代にいたる日本美術を鑑賞し、文献を講読する。毎時間、代表的な美術作品を1点取り上げ、どういふ社会状況のもとに生み出されたのか、何に用いられたのか、主題はなにか、技法の特徴などについて解説する。取り上げる分野は彫刻、絵画、建築などで、歴史的背景や作者の略歴についても紹介する。また授業期間中に適宜、寺院、神社、美術館を実地見学し、美術作品や作品の生まれた空間を体感する。美術を通じて、日本人の考え方や感性に対する理解を深めるのが目的である。				
<b>【 到達目標 】</b> 日本の美術に関する知識を会得し、日本人の感性に対する理解を深める。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 講義、スライドによる美術資料の鑑賞、美術館や寺院などに実地見学。				
<b>【 授業 (指導) 計画 】</b> 1 オリエンテーション 2 奈良時代の仏像 3 平安時代の仏像 4 時代の絵巻物 5 鎌倉時代の彫刻 6 鎌倉時代の絵巻物 7 鎌倉時代の肖像画 8 室町時代の水墨画 9 桃山時代の障屏画 10 江戸時代の琳派画 11 江戸時代の写生画 12 江戸時代の文人画 13 江戸時代の浮世絵 14 実地見学 15 まとめ				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> <b>【事前学習】</b> 図書館の美術書のコーナー (または大型本コーナー) に美術全集や美術書があります。授業の前に講義のテーマについて下調べをしておいてください。WEBでもかまいません。 <b>【事後学習】</b> 積極的に美術館・博物館・寺院・神社などに出かけ、授業に登場した美術品を実際にみるよう努めてください。				
<b>【 評価基準 】</b> 受講態度とレポート。				
<b>【 教材等 】</b> 授業中にプリントを配布する。			<b>【 備考 】</b>	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
アジア地域文化特論ⅤA (日本地誌) (2015年度入学者用)	1	前期	2	ハラヒテ <sup>サダ</sup> 原 秀 禎
東アジア地域文化特論ⅤA (日本地誌) Topics in East Asian Areas and Cultures ⅤA (Japanese Regional Geography) (2014年度以前入学者用)				
<b>【 授業 (指導) 概要・目的 】</b> ・この講義では、東アジア地域の中から日本を取り上げ、日本における「古墳文化」と「古代の開発」について検討を加える。・前期では、日本全国に分布する古墳の立地形態を明らかにし、各地域における古墳文化の成立過程、農業開発との関連性、大和政権の影響など、古墳文化の特色を様々な観点から解明する。・さらに、各分野における研究の現状や問題点の整理、今後の研究課題など古墳文化の全容を究明していく。・特に、「古墳の立地」については、地形分類からどのような分析が可能か、具体的事例を踏まえながら、立地特性を明らかにしたい。				
<b>【 到達目標 】</b> 日本における古墳文化の全容を理解するとともに、古墳立地研究の課題と問題点、立地研究の方法論を身につける。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 講義を中心とする。研究の問題点や課題については、議論を交えて理解を深めたい。また、古墳に関する一つのテーマを設定し、文献研究を行った後、レポートを作成してもらおう。				
<b>【 授業 (指導) 計画 】</b> 以下のような順序で、古墳の立地と古墳文化全般について、その問題点と課題を解明したい。 ①古墳立地研究の視点 ②古墳の立地環境と地形 ③山地と古墳立地 ④丘陵と古墳立地Ⅰ ⑤丘陵と古墳立地Ⅱ ⑥河岸段丘と古墳立地Ⅰ ⑦河岸段丘と古墳立地Ⅱ ⑧海岸段丘と古墳立地Ⅰ ⑨扇状地と古墳立地 ⑩自然堤防と古墳立地Ⅰ ⑪自然堤防と古墳立地Ⅱ ⑫三角州と古墳立地 ⑬古墳立地の類型化 ⑭日本における古墳立地の特性 ⑮まとめとレポートの説明				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> ・事前に各回の資料を配付するので、講義前に熟読し、問題点を整理しておく。 ・各回の講義終了後、講義内容をまとめ、レポートとして次回の講義時に提出する。 ・全講義終了後には、期末レポートを作成し提出する。				
<b>【 評価基準 】</b> レポート内容と講義への取り組み姿勢によって総合的に評価する。				
<b>【 教材等 】</b> 適宜、講義中に配布する。			<b>【 備考 】</b>	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
アジア地域文化特論ⅤB (日本地誌) (2015年度入学者用)	1	後期	2	ハラヒテ <sup>サダ</sup> 原 秀 禎
東アジア地域文化特論ⅤB (日本地誌) Topics in East Asian Areas and Cultures VB (Japanese Regional Geography) (2014年度以前入学者用)				
<b>【 授業 (指導) 概要・目的 】</b> ・後期は、日本における古代の開発をテーマに、古代の大運河「古市大溝 (大阪府羽曳野市所在)」を取り上げる。 ・現在も論点となっている開削年代と開削目的について詳細に検討する。 ・さらに、『日本書紀』に記された「感玖の大溝」との関連性についても、研究史を踏まえながら問題点を整理し、諸説の論点を明らかにしたい。 ・また、方法論としての、地形分類、花粉分析、小字名の検討法、農業水利の復原法などについても紹介する。				
<b>【 到達目標 】</b> 日本における古代の開発について、「古市大溝の開削と渡来人」をテーマに、それらの研究史、方法論を身につける。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 講義を中心とする。研究の問題点や課題については、議論を交えて理解を深めたい。また、古代の開発に関する一つのテーマを設定し、文献研究を行った後、レポートを作成してもらう。				
<b>【 授業 (指導) 計画 】</b> 古代の開発史上特筆すべき、「古市大溝」に焦点を絞って、その問題点と課題を究明する。 ①「古市大溝」とは何か ②～③「古市大溝」研究史 ④「感玖の大溝」に関する研究 ⑤「古市大溝」舟運説 ⑥「古市大溝」灌漑説 ⑦「古市大溝」5世紀説 ⑧「古市大溝」7世紀説 ⑨「古市大溝」6世紀中葉説 ⑩～⑭問題点の整理と論点 ⑮まとめとレポートの説明				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> ・事前に各回の資料を配付するので、講義前に熟読し、問題点を整理しておく。 ・各回の講義終了後、講義内容をまとめ、レポートとして次回の講義時に提出する。 ・全講義終了後には、期末レポートを作成し提出する。				
<b>【 評価基準 】</b> レポート内容と講義への取り組み姿勢によって総合的に評価する。				
<b>【 教材等 】</b> 適宜、講義中に配布する。			<b>【 備考 】</b>	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
アジア言語文化研究総合演習Ⅰ (2015年度入学者用)	1	前期	2	下記指導担当者参照
東アジア言語文化研究総合演習Ⅰ Seminar on East Asian Languages and CulturesⅠ (2014年度以前入学者用)				
<b>【 授業（指導）概要・目的 】</b> 入学当初に提出した各自の研究テーマと研究計画を踏まえ、各指導教員の指導のもとに研究倫理のあり方を理解し、各自が研究資料の調査・収集等の予備的作業を行ない、討論・発表を通じて、研究遂行に必要な諸技能を修得する。				
<b>【 到達目標 】</b> 修士論文作成のための下準備。 論文作成や資料収集における研究倫理のあり方を理解する。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 各指導教員の指示に従う。				
<b>【 授業（指導）計画 】</b> 各指導教員の指示に従う。				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> 【事前】資料収集・論文作成など各自に必要な作業を行う。 【事後】指導教員に指摘された箇所を検討し、修正する。				
<b>【 評価基準 】</b> 各指導教員の指示に従う。				
<b>【 教材等 】</b> 各指導教員の指示による。			<b>【 指導担当者 】</b> 岩間 香、小川 豊生、瀬戸 宏、 山口 真佐夫、門脇 薫	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
アジア言語文化研究総合演習Ⅱ (2015年度入学者用)	1	後期	2	下記指導担当者参照
東アジア言語文化研究総合演習Ⅱ Seminar on East Asian Languages and CulturesⅡ (2014年度以前入学者用)				
<b>【 授業（指導）概要・目的 】</b> 総合演習Ⅰをうけて、各自が設定した課題についての調査・研究を継続し、討論・発表等を通じて、より次元の高い研究技法の習得と研究能力の向上に努める。				
<b>【 到達目標 】</b> 修士論文作成のための下準備。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 各指導教員の指示に従う。				
<b>【 授業（指導）計画 】</b> 各指導教員の指示に従う。				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> 【事前】資料収集・論文作成など各自に必要な作業を行う。 【事後】指導教員に指摘された箇所を検討し、修正する。				
<b>【 評価基準 】</b> 各指導教員の指示に従う。				
<b>【 教材等 】</b> 各指導教員の指示による。			<b>【 指導担当者 】</b> 岩間 香、小川 豊生、瀬戸 宏、 山口 真佐夫、門脇 薫	

科目名	配当年次	開講期	単位数	担当者
アジア言語文化研究総合演習Ⅲ (2015年度入学者用)	2	前期	2	下記指導担当者参照
東アジア言語文化研究総合演習Ⅲ Seminar on East Asian Languages and Cultures Ⅲ (2014年度以前入学者用)				
<b>【 授業（指導）概要・目的 】</b> 総合演習Ⅰ・Ⅱをうけて、各自が設定した課題についての調査・研究を深め、各指導教員の指導のもとに、修士論文を作成する。				
<b>【 到達目標 】</b> 修士論文の作成。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 各指導教員の指示に従う。				
<b>【 授業（指導）計画 】</b> 各指導教員の指示に従う。				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> 【事前】資料収集・論文作成など各自に必要な作業を行う。 【事後】指導教員に指摘された箇所を検討し、修正する。				
<b>【 評価基準 】</b> 各指導教員の指示に従う。				
<b>【 教材等 】</b> 各指導教員の指示による。			<b>【 指導担当者 】</b> 岩間 香、小川 豊生、瀬戸 宏、 山口 真佐夫、門脇 薫	

科目名	配当年次	開講期	単位数	担当者
アジア言語文化研究総合演習Ⅳ (2015年度入学者用)	2	後期	2	下記指導担当者参照
東アジア言語文化研究総合演習Ⅳ Seminar on East Asian Languages and Cultures Ⅳ (2014年度以前入学者用)				
<b>【 授業（指導）概要・目的 】</b> 総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにもとづき、各自が設定した課題についての集大成として、各指導教員の指導のもとに、修士論文を完成させる。				
<b>【 到達目標 】</b> 修士論文の完成。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 各指導教員の指示に従う。				
<b>【 授業（指導）計画 】</b> 各指導教員の指示に従う。				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> 【事前】資料収集・論文作成など各自に必要な作業を行う。 【事後】指導教員に指摘された箇所を検討し、修正する。				
<b>【 評価基準 】</b> 各指導教員の指示に従う。				
<b>【 教材等 】</b> 各指導教員の指示による。			<b>【 指導担当者 】</b> 岩間 香、小川 豊生、瀬戸 宏、 山口 真佐夫、門脇 薫	

科目名	配当年次	開講期	単位数	担当者
上級英語 I Advanced English I (2015年度・2014年度以前入学者用)	1	前期	1	ショーン マクガハン Sean McGovern
<b>【 授業（指導）概要・目的 】</b> 会話、討論における言語能力とともに、文章作成能力の向上をはかる。授業ではエッセイを読みこなす力を養う。語彙力の増進と、基本的な文章の作成とともに、各自の関心のある課題にそって、レポートを作成し、発表を行う技術の習得に力点をおく。				
<b>【 到達目標 】</b> 毎週の授業では実践英語の上達過程とし、語彙力をあげる訓練とショートエッセイの読みや、作成に取り組む。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 授業では英語でエッセイを読み、文章を作成していく。クラス討論も英語で全て行う。				
<b>【 授業（指導）計画 】</b> 英語での文章の作成、エッセイの基本構成を学ぶ。各自関心のあるトピックを選び、レポートを作成。				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> 授業内では新しいアイデアを示すことが求められるため、情報収集やレポートの下書きなどを行うこと。				
<b>【 評価基準 】</b> クラスワーク 40% レポート 30% プレゼンテーション 30%				
<b>【 教材等 】</b> プリント			<b>【 備考 】</b>	

科目名	配当年次	開講期	単位数	担当者
上級英語 II Advanced English II (2015年度・2014年度以前入学者用)	1	後期	1	ショーン マクガハン Sean McGovern
<b>【 授業（指導）概要・目的 】</b> 会話、討論における言語能力とともに、文章作成能力の向上をはかる。授業ではエッセイを読みこなす力を養う。語彙力の増進と、基本的な文章の作成とともに、各自の関心のある課題にそって、レポートを作成し、発表を行う技術の習得に力点をおく。				
<b>【 到達目標 】</b> 毎週の授業では実践英語の上達過程とし、語彙力をあげる訓練とショートエッセイの読みや、作成に取り組む。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 授業では英語でエッセイを読み、文章を作成していく。クラス討論も英語で全て行う。				
<b>【 授業（指導）計画 】</b> 各自作成したレポートのプレゼンテーションの効果的な技法をまなび、発表する。				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> 授業内では新しいアイデアを示すことが求められるため、情報収集やレポートの下書きなどを行うこと。				
<b>【 評価基準 】</b> クラスワーク 40% レポート 30% プレゼンテーション 30%				
<b>【 教材等 】</b> プリント			<b>【 備考 】</b>	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
上級中国語Ⅰ Advanced Chinese I (2015年度・2014年度以前入学者用)	1	前期	1	セトヒロシ 瀬戸 宏
<b>【 授業（指導）概要・目的 】</b> この授業では自然な中国語対話の運用力とより深い中国語理解力の向上を目指す。講義の素材は新聞雑誌やウェブサイトなどから選び、文法、語彙、発音を詳細に吟味する。文法に関しては基本中国語文法の枠を超え微細な意味の違いに文法がどのように反映しているか、また新生語、流行語の実例を考察する。話題はさまざまだが、その時しか価値のない内容は避けたい。				
<b>【 到達目標 】</b> 中国の原書の読解力を身につけることを目指す。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> テキストを講読してテキストの内容をめぐって講義し、日本語による訳読をおこなう。受講生がネイティブである場合は、正しい日本語に翻訳する訓練を兼ねる。				
<b>【 授業（指導）計画 】</b> 授業では現代中国をめぐってさまざまなことを講義し、2回1テーマで進む。次の話題を取り上げる予定：1 キャンパス・ライン、2 中国人の家庭観念、3 中国の食文化、4 生活観の変化、5 消費の新しい傾向、6 中国人のレジャー、7 職業選択観の変化、8 中国の経済発展、9 交通問題、10 住宅問題、11 人口問題、12 老人問題、13 交際と結婚、14, 15 中国の媒体。				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> 各回の指定教材をあらかじめ読んだうえ、内容を日本語に訳しておくこと。				
<b>【 評価基準 】</b> 試験成績及び練習への参加。				
<b>【 教材等 】</b> 私製教材やコピーを配布する。			<b>【 備考 】</b>	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
上級中国語Ⅱ Advanced Chinese II (2015年度・2014年度以前入学者用)	1	後期	1	セトヒロシ 瀬戸 宏
<b>【 授業（指導）概要・目的 】</b> この授業では自然な中国語対話の運用力とより深い中国語理解力の向上を目指す。講義の素材は新聞雑誌やウェブサイトなどから選び、文法、語彙、発音を詳細に吟味する。文法に関しては基本中国語文法の枠を超え微細な意味の違いに文法がどのように反映しているか、また新生語、流行語の実例を考察する。話題はさまざまだが、その時しか価値のない内容は避けたい。				
<b>【 到達目標 】</b> 中国の原書の読解力を身につけることを目指す。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> テキストを講読してテキストの内容をめぐって講義し、日本語による訳読をおこなう。				
<b>【 授業（指導）計画 】</b> 授業では現代中国をめぐってさまざまなことを講義し、2回1テーマで進む。次の話題を取り上げる予定：1 キャンパス・ライン、2 中国人の家庭観念、3 中国の食文化、4 生活観の変化、5 消費の新しい傾向、6 中国人のレジャー、7 職業選択観の変化、8 中国の経済発展、9 交通問題、10 住宅問題、11 人口問題、12 老人問題、13 交際と結婚、14, 15 中国の媒体。				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> 各回の指定教材をあらかじめ読んだうえ、内容を日本語に訳しておくこと。				
<b>【 評価基準 】</b> 試験成績及び練習への参加。				
<b>【 教材等 】</b> 私製教材やコピーを配布する。			<b>【 備考 】</b>	

科目名	配当年次	開講期	単位数	担当者
上級スペイン語Ⅰ (2015年度入学者用)	1	前期	2	シハラアト ホウジョウユカリ 篠原 愛人 ・ 北條 ゆかり
<b>【授業（指導）概要・目的】</b> 専門書を十二分に読みこなせる力を養成する。受講生の専門分野、能力、希望などを考慮したうえで、スペイン語で書かれた論文あるいは歴史資料を読んでいく。				
<b>【到達目標】</b> 専門的な文章が読めるようになる。論文あるいは歴史資料の表現方法に慣れる。				
<b>【指導方法と留意点】</b> 精読につとめ、日本語への翻訳についても指導していく。				
<b>【授業（指導）計画】</b> 毎回、範囲を定め、期間内に読み終える。ただ日本語に訳すだけでなく、読むのに必要な背景についても知識を広げる。				
<b>【事前・事後学習課題】</b> 予め指定された範囲について翻訳を作っておくことと、読了した箇所についてはレジュメを作成すること。				
<b>【評価基準】</b> 翻訳の成果とレジュメによる。				
<b>【教材等】</b> プリントを用意する			<b>【備考】</b>	

科目名	配当年次	開講期	単位数	担当者
上級スペイン語Ⅱ (2015年度入学者用)	1	後期	2	シハラアト ホウジョウユカリ 篠原 愛人 ・ 北條 ゆかり
<b>【授業（指導）概要・目的】</b> 専門書を十二分に読みこなせる力を養成する。受講生の専門分野、習熟度、希望や関心などを考慮したうえで、スペイン語で書かれた著書、論文あるいは論説文を読んでいく。				
<b>【到達目標】</b> 専門的な文章がスペイン語で速やかに正しく読解できるようになる。学術論文や時事問題を扱った論説文の表現方法に慣れる。				
<b>【指導方法と留意点】</b> 精読につとめ、日本語への翻訳についても指導していく。				
<b>【授業（指導）計画】</b> 毎回、範囲を定め、期間内に読み終える。単なる訳読作業ではなく、内容の理解に必要な背景知識を深める。				
<b>【事前・事後学習課題】</b> 予め指定された範囲について翻訳原稿を作成し、読了した箇所についてはレジュメを作成すること。				
<b>【評価基準】</b> 翻訳の成果とレジュメによる。				
<b>【教材等】</b> プリントを用意する。			<b>【備考】</b>	

科目名	配当年次	開講期	単位数	担当者
上級インドネシア・マレー語Ⅰ (2015年度入学者用)	1	前期	2	ヤマグチ マサオ ウエダトオル 山口 真佐夫・上田 達
<b>【授業(指導)概要・目的】</b> インドネシア、マレーシア、ブルネイ、シンガポール、東ティモール等で使われているインドネシア・マレー語は、国語・公用語として用いている人口は中国語、スペイン語、英語について世界第四位である。この授業ではインドネシア・マレー語の基本を身につけた上で、高度な運用ができることを目指す。				
<b>【到達目標】</b> インドネシア・マレー語の基本を踏まえた上で、高度な運用が身につく。				
<b>【指導方法と留意点】</b> インドネシア・マレー語で書かれた教材を用いて、講読力を身につけるように指導する。				
<b>【授業(指導)計画】</b> 先ずインドネシア・マレー語の基本文法、発音、綴り等の基本を身につける。さらに講読を通して高度な読解力を習得する。				
<b>【事前・事後学習課題】</b> 語学力の向上には予習・復習は欠かせない。毎回指示された予習を行った上で授業に出ること。また、授業内容についての復習を怠らないこと。				
<b>【評価基準】</b> 平常点を含め、総合的に判断する。				
<b>【教材等】</b> 適宜指示する。			<b>【備考】</b>	

科目名	配当年次	開講期	単位数	担当者
上級インドネシア・マレー語Ⅱ (2015年度入学者用)	1	後期	2	ヤマグチ マサオ ウエダトオル 山口 真佐夫・上田 達
<b>【授業(指導)概要・目的】</b> インドネシア、マレーシア、ブルネイ、シンガポール、東ティモール等で使われているインドネシア・マレー語は、国語・公用語として用いている人口は中国語、スペイン語、英語について世界第四位である。この授業ではインドネシア・マレー語の高度で実際的な運用ができることを目指す。				
<b>【到達目標】</b> インドネシア・マレー語の原書の講読、論文の作成、プレゼンテーション能力を習得できる。				
<b>【指導方法と留意点】</b> 原書の講読を行い、さらに論文の作成を行う。講読、論文作成で養った能力をもとにプレゼンテーションを行う。				
<b>【授業(指導)計画】</b> インドネシア・マレー語の原書の講読を行う。論文作成の基本を指導し、実際に論文を作成する。テーマを決め、プレゼンテーションを行う。				
<b>【事前・事後学習課題】</b> 語学力の向上には予習・復習は欠かせない。毎回指示された予習を行った上で授業に出ること。また、授業内容についての復習を怠らないこと。				
<b>【評価基準】</b> 平常点を含め、総合的に判断する。				
<b>【教材等】</b> 適宜指示する。			<b>【備考】</b>	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
国際政治特論 I Topics in International Politics I (2015年度・2014年度以前入学者用)	1	前期	2	
<b>【 授業（指導）概要・目的 】</b> 国際政治を理解するための枠組みとして国際政治学の諸理論を理解することを目指す。とりわけ、post-positivismと呼ばれる最新の研究動向を紹介する。 グローバリゼーションの進展する今日、国際政治の場面に現れる問題は多様化し、複雑になり、数的にも増している。これに対応して、国際政治の理論も深化と拡大をしつつあり、旧来の理論枠組みは早晚、過去の遺物になるだろう。国際政治学は、英米を研究の中心地としてきたのであり、その意味で国際政治の実際同様に、むしろそれ以上に国際政治学においては文化的な偏重が激しかった。post-positivismの研究は、このような偏重のあり方を明らかにするとともに、それに代わるより公正な国際政治の理解の仕方を模索するものと言える。 したがって、このような国際政治学の新しい動向を知ることが、より公正な世界のあり方を実現していく上でも、有益である。実践に志向した理論研究のあり方についても、学んで欲しい。				
<b>【 到達目標 】</b> 国際政治学の基本的な理論について、その用語、争点、議論について理解する。あわせて国際政治の最近の動きについて理論的に把握できるようにする。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 国際政治および国際政治学についての基礎知識をもっていることを期待したいが、これらの点の受講生の準備の程度に応じて適宜、対応して授業の内容を変更する。 教材は、英語のものを用いる。				
<b>【 授業（指導）計画 】</b> 国際政治学の20世紀諸学派(リアリストを中心に) 実証主義批判(自然科学と社会科学) フェミニズム 構式主義 コペンハーゲン学派 批判理論 について順次、取り上げて議論していく。				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> ・各回の指定教材（英文30～50ページ、邦文30～50ページ）を予め通読のうえ、要点を整理しておくこと。また当該授業終了後、自らの考えをまとめておき、中間レポートおよび期末レポートの作成に備えること。（合計30h）。 ・中間レポート及び期末レポートの作成（合計30h）。				
<b>【 評価基準 】</b> 授業への参加(30%)、中間レポート(20%)、期末レポート(50%)				
<b>【 教材等 】</b> プリントを配布する。		<b>【 備考 】</b> 前期中に全てが終わることは考えられないので、後期の「国際政治特論Ⅱ」に引き継いで授業を進める。		

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
国際政治特論Ⅱ Topics in International Politics Ⅱ (2015年度・2014年度以前入学者用)	1	後期	2	
<b>【 授業（指導）概要・目的 】</b>				
<p>国際政治を理解するための枠組みとして国際政治学の諸理論を理解することを目指す。とりわけ、post-positivismと呼ばれる最新の研究動向を紹介する。</p> <p>グローバリゼーションの進展する今日、国際政治の場面に現れる問題は多様化し、複雑になり、数的にも増している。これに対応して、国際政治の理論も深化と拡大をしつつあり、旧来の理論枠組みは早晩、過去の遺物になるだろう。国際政治学は、英米を研究の中心地としてきたのであり、その意味で国際政治の実際同様に、むしろそれ以上に国際政治学においては文化的な偏重が激しかった。post-positivismの研究は、このような偏重のあり方を明らかにするとともに、それに代わるより公正な国際政治の理解の仕方を模索するものと言える。</p> <p>したがって、このような国際政治学の新しい動向を知ることが、より公正な世界のあり方を実現していく上で、有益である。実践に志向した理論研究のあり方についても、学んで欲しい。</p>				
<b>【 到達目標 】</b>				
<p>国際政治学の基本的な理論について、その用語、争点、議論について理解する。あわせて国際政治の最近の動きについて理論的に把握できるようにする。</p>				
<b>【 指導方法と留意点 】</b>				
<p>国際政治および国際政治学についての基礎知識をもっていることを期待したいが、これらの点の受講生の準備の程度に応じて適宜、対応して授業の内容を変更する。</p> <p>教材は、英語のものを用いる。</p>				
<b>【 授業（指導）計画 】</b>				
<p>国際政治学の20世紀諸学派(リアリストを中心に)          実証主義批判(自然科学と社会科学)          フェミニズム          構式主義          コペンハーゲン学派          批判理論          について順次、取り上げて議論していく。</p>				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b>				
<p>・各回の指定教材（英文30～50ページ、邦文30～50ページ）を予め通読のうえ、要点を整理しておくこと。また当該授業終了後、自らの考えをまとめておき、中間レポートおよび期末レポートの作成に備えること。（合計30h）。</p> <p>・中間レポート及び期末レポートの作成（合計30h）。</p>				
<b>【 評価基準 】</b>				
<p>授業への参加(30%)、中間レポート(20%)、期末レポート(50%)</p>				
<b>【 教材等 】</b>		<b>【 備考 】</b>		
<p>プリントを配布する。</p>		<p>前期の「国際政治特論Ⅰ」から継続して、授業を進めていく。</p>		

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
国際経済特論Ⅰ Topics in International Economy I (2015年度・2014年度以前入学者用)	1	前期	2	スギモト アツノ 杉本 篤信
<b>【 授業（指導）概要・目的 】</b> グローバル化の進む中、国際経済の動きを見ることなく、日本経済を語ることは不可能である。例えば、現在の日本の問題「不況」「貿易収支の赤字」「財政収支の赤字」が、どのような問題で、どのように海外の経済と関連しているかを考察するためには、金融、貿易の基本的理論の理解が不可避となる。本講義は、経済理論の理解とそれを通じて現実の経済を分析することを目的とする。特に、経済学では国際経済をどう分析してきたのかを講義する。				
<b>【 到達目標 】</b> 基本的な経済理論の理解。理論を通しての現実の把握。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 特に予備的知識は必要としないが、抽象的な理論を理解するためには、多少の数式やグラフを理解することを躊躇しないこと。				
<b>【 授業（指導）計画 】</b> 1、国際収支表の見方 2、為替レート 3、貿易の理論 4、貿易の介入の方法 5、発展途上国の貿易介入 6、為替レート決定の理論				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> 指定しておいたトピックの資料に目を通し、疑問点、自分なりの問題点を整理しておくこと。講義の後にはその内容を整理し、レポート作成の準備をしておくこと。				
<b>【 評価基準 】</b> 受講状況、提出物、報告などを総合的に評価。				
<b>【 教材等 】</b> 講義中に指示。			<b>【 備考 】</b>	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
国際経済特論Ⅱ Topics in International Economy II (2015年度・2014年度以前入学者用)	1	後期	2	スギモト アツノ 杉本 篤信
<b>【 授業（指導）概要・目的 】</b> グローバル化の進む中、国際経済の動きを見ることなく、日本経済を語ることは不可能である。例えば、現在の日本の問題「不況」「貿易収支の赤字」「財政収支の赤字」が、どのような問題で、どのように海外の経済と関連しているかを考察するためには、金融、貿易の基本的理論の理解が不可避となる。本講義は、経済理論の理解とそれを通じて現実の経済を分析することを目的とする。				
<b>【 到達目標 】</b> 現在の国際経済の動向を理論的考察ができること。新聞、雑誌、テレビなどの経済の情報を理解できること。				
<b>【 指導方法と留意点 】</b> 国際経済特論Ⅰの内容をよく復習すること。				
<b>【 授業（指導）計画 】</b> 1、日本経済と国際経済 2、国際マクロ経済学 3、変貌する通商システム 4、国際資金フローと国際金融市場 5、国際的な経済危機の構造 6、新興勢力と日本経済				
<b>【 事前・事後学習課題 】</b> 指定しておいたトピックの資料に目を通し、疑問点、自分なりの問題点を整理しておくこと。講義の後にはその内容を整理し、レポート作成の準備をしておくこと。				
<b>【 評価基準 】</b> 受講状況、提出物、報告などを総合的に評価。				
<b>【 教材等 】</b> 講義中に指示。			<b>【 備考 】</b>	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
異文化理解Ⅰ・Ⅱ Intercultural CommunicationⅠ・Ⅱ (2015年度・2014年度以前入学者用)	1	Ⅰ 前期 Ⅱ 後期	2 (半期)	伊マカサ 岩間 香 他4名
<p><b>【 授業（指導）概要・目的 】</b>  人はそれぞれ固有の文化に育まれて自己形成する。そのため見知らぬ文化に接触すると、驚愕、感嘆、憤怒、等々、さまざまな心理的反応を示すことになる。この講義では、異文化に対する理解と認識のありようを、異なる学問領域の視点に立って検討する。</p>				
<p><b>【 到達目標 】</b>  学問対象に対するアプローチの仕方を身につける。</p>				
<p><b>【 指導方法と留意点 】</b>  文献・資料の読解・調査・検討。</p>				
<p><b>【 授業（指導）計画 】</b>  基本的には(a)～(f)の中から前期（異文化理解Ⅰ）・後期（異文化理解Ⅱ）、それぞれ2つを選択するが、1つの科目を半期で行う場合もある。その講義内容・評価等については次ページを参照すること。</p>				
<p><b>【 事前・事後学習課題 】</b>  【事前】 教材を事前に読み、必要な調べものをしておく。  【事後】 ノートや資料を整理し、講義の中で明らかになった点をまとめておく。</p>				
<p><b>【 評価基準 】</b>  次ページ参照</p>				
<p><b>【 教材等 】</b>  次ページ参照</p>	<p><b>【 共同担当者 】</b>  岩間 香、小川 豊生、篠原 愛人、山口 真佐夫、  林田 敏子</p>			

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
異文化理解Ⅰ・Ⅱ Intercultural CommunicationⅠ・Ⅱ (2015年度・2014年度以前入学者用)	1	Ⅰ前期 Ⅱ後期	2 (半期)	伊マカサ 岩間 香 他4名
(a)「異文化受容」〔岩間 香〕 日本は古代から近世にかけて中国文化の影響を、近世初期と後期にヨーロッパ文化の影響を受けた。しかし受容の実態は単純ではなく、日本の社会や文化に合うものを取捨選択している。異文化の受容とは何か、美術を例に考察する。				
【評価基準】 受講態度・レポート		【教材等】 授業中に配布する。		
(b)「西洋人から見た日本文化」〔小川 豊生〕 西洋の人々が日本についていかなるイメージを抱き、日本文化をどのようにとらえてきたか、その系譜をたどりつつ、日本あるいは日本文化を、外部の眼差しをとおした「異文化」として研究する。				
【評価基準】 授業への参加状況とレポートを中心に評価する。		【教材等】 授業時に指示する。		
(c)「異文化接触」〔篠原 愛人〕 アステカ王国征服の過程でスペイン人修道士たちはインディオの言語を習得し、宗教・文化を研究して土着宗教の徹底的根絶をめざした。そうした彼らが残した作品を通して16世紀における他者認識や異文化理解のあり方を探求する。				
【評価基準】 レポートによる。		【教材等】 必要に応じ、授業中に配布する。		
(d)「言語と社会」〔山口 真佐夫〕 先ず、アジアに分布する言語の系統や文法的特徴について概観し、それらの言語をおもに比較言語学を通して説明する。また、社会言語学、言語人類学の視点から言語と社会あるいは言語と文化の関係を、異文化接触を含めて考察する。				
【評価基準】 平常点と発表。		【教材等】 プリントを用意する。		
(e)「植民地支配と異文化接触」〔林田 敏子〕 イギリスを中心に植民地支配における異文化接触のあり方について考える。人種的・宗教的・民族的「他者」との遭遇がもたらす葛藤をとおして、歴史的視点から異文化を理解する糸口をさぐる。				
【評価基準】 受講態度・レポート		【教材等】 授業中に配布する。		

## 大学院シラバス

2015年4月

発行 常翔学園 摂南大学

寝屋川学舎 〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町17番8号  
電話 (072) 839-9106 【教務課】

